

教育関係共同利用拠点
Joint Educational Development Center

「大学教育イノベーション人材開発拠点」

“Innovation in Learning and Teaching at University”

令和6年度 事業報告書

Project Report 2024



東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター

Center for Professional Development(CPD)
Institute for Excellence in Higher Education(IEHE)
Tohoku University

目次

1	2024 年度教育関係共同利用拠点の概要.....	2
1.1	教育関係共同利用拠点の事業及び組織	2
1.2	拠点プログラムの概要.....	2
2	2024 年度拠点事業の報告	4
2.1	主な取組.....	4
2.2	主な成果.....	4
2.3	プログラムの開発・実施	6
2.3.1	大学教員準備プログラム(PFFP)・新任教員プログラム(NFP).....	6
2.3.2	大学経営基礎講座.....	10
2.3.3	大学マネジメント開発プログラム(SDP)	13
2.3.4	専門教育指導力育成プログラム(DTP).....	14
2.3.5	専門性開発セミナー(PD セミナー)	18
2.3.6	PDPonline(専門性開発プログラム動画配信サイト)	19
3	メンバー.....	20
3.1	大学教育支援センター教員・支援スタッフ等	20
3.2	大学教育支援センター共同利用運営委員会委員	20
4	資料.....	21
4.1	プレ FD(PFFP・NFP)アンケート.....	21
4.2	大学経営基礎講座アンケート.....	30
4.3	プログラム修了者数(2010～2024 年度).....	45
4.4	PD(専門性開発)分野一覧	46
4.5	PD セミナー等分野別一覧.....	47
4.6	PD セミナー参加者アンケート結果	48
4.7	PDPonline(専門性開発プログラム動画配信サイト)一覧.....	51

1 2024 年度教育関係共同利用拠点の概要

1.1 教育関係共同利用拠点の事業及び組織

東北大学高度教養教育・学生支援機構(以下、機構)は、2010 年 3 月に文部科学省の教育関係共同利用拠点の認定を受けて以来、それを継続して現在に至っている。第 1 期(2010～2014 年度)は、「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」として、海外の最先端プログラムの導入を基本に、①教員の能力の構造化とキャリアステージに対応したプログラムの開発・提供、②教職協働を進める職員開発、③教育改革を進める中核人材の育成、の 3 つのコンセプトに基づいて様々な取組を行った。その後、第 2 期(2015～2020 年度)は、「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 SoTL の開発」として引き続き活動した。そして、第 3 期(2021～2025 年度)は、「大学教育イノベーション人材開発拠点」として新たな認定を受け、これまでの活動の継続とさらなる発展に努めることとなった。なお 2019 年には文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択され、社会人の学び直しを含む質の高い実務家教員育成研修プログラムの提供も行った(2023年度をもって終了)。

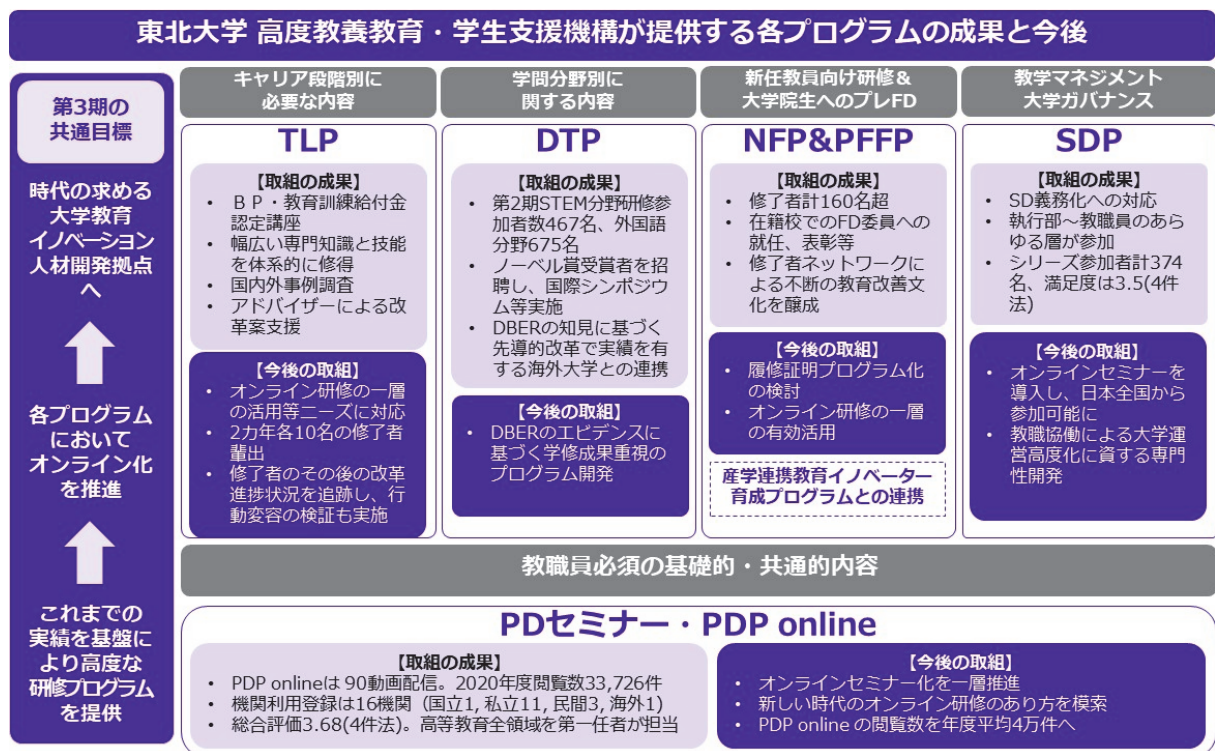
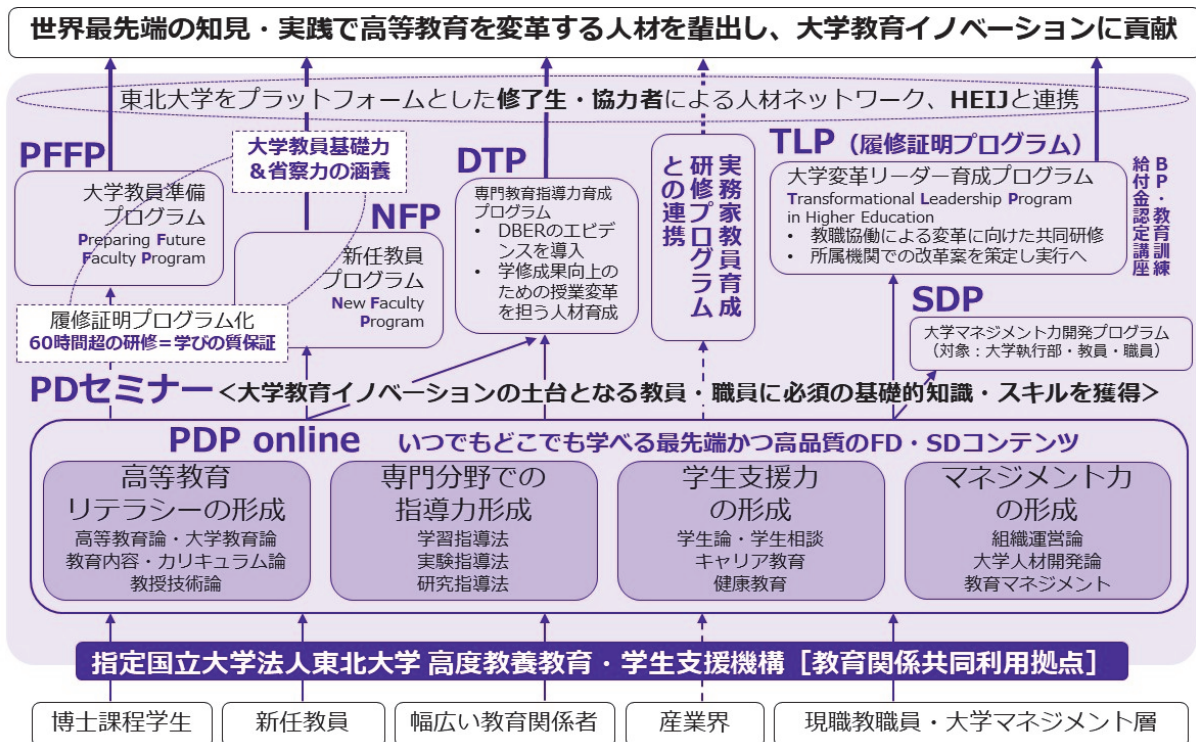
大学教育支援センター(Center for Professional Development: CPD)は、こうした教育関係共同利用拠点としての役割を果たすために高度教養教育・学生支援機構内に設置された業務センターである。CPD では、当機構における先進的な取組と成果を学内外に発信することで、日本の高等教育の質向上に寄与するインターフェースの役割も担っている。

1.2 拠点プログラムの概要

当機構及び CPD は、第 1 期から第 2 期にかけて大学教職員の能力開発(FD・SD)事業を開発・発展させてきており、それは次の特色を有する。

第一に「国際性」である。米・カリフォルニア大学バークレー校、カナダ・クイーンズ大学、豪・メルボルン大学等との国際連携、及び米・スタンフォード大学、コーネル大学、英・インペリアルカレッジ、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学等の専門家からの知見の提供を通して教職員能力開発プログラムを開発し、日本に適合するよう内製化に努めている。第二に「総合性」である。大学教育共通の普遍的課題に取り組む大学教育開発の総合的拠点として、個々の教職員の能力開発と共に、学部・研究科や全学的な課題解決を主導できる人材育成にも取り組んでいる。そして第三に「学問分野固有の専門性習得」である。重点領域として、学問分野固有の専門性習得に向けた教育研究「DBER」(Discipline-Based Education Research)に基づく「専門教育指導力育成プログラム」(DTP)の取組を推進した。加えて、2017 年度に義務化された SD の趣旨を踏まえた「大学マネジメント力開発プログラム」(SDP)シリーズを開発・提供した。

以上のこれまでの特徴に加え、第3期では「オンライン化」に注力する。日本では 1991 年の大学設置基準の大綱化以来、「平成の大学改革」が進められてきた。そうしたなかで各種研修も広く全国で実施されるようになった。しかしながら新型コロナウイルス感染症は、これまでの大学・高等教育改革に資する各種研修のあり方について再考を迫ったといえる。第 1 期・第 2 期で実践した各種事業の方向性を踏襲しつつ、ポストコロナの新たな大学像・高等教育像を見据えて、各種研修のオンライン化を試みることで、教育関係共同利用拠点としての役割を果たしたいと考えている。



第3期(2021～2025年度)「大学教育イノベーション人材開発拠点」(申請時)の全体概要

2 2024 年度拠点事業の報告

2.1 主な取組

2024 年度は「大学教育イノベーション人材開発拠点」の 4 年目として、以下の事業に取り組んだ。

- 教職員の専門性として必要な「高等教育のリテラシー」「専門教育での指導力」「学生支援力」「マネジメント力」の4領域ごとの専門性開発(PD)セミナーの開発・提供と専門性開発プログラム PDPonline の動画コンテンツの拡充を行った。
- 大学教員の教授力向上の支援に努めた。日本全国の博士課程後期学生等を対象に「大学教員準備プログラム(PFFP)」を実施した。加えてすでに大学教授職の身分にあるものの、大学での教育経験が比較的浅い教員を対象に、「新任教員プログラム(NFP)」をオンデマンドプログラムとして実施した。
- 履修証明プログラム「大学変革リーダー育成プログラム(TLP)」の後継プログラムとして、履修証明プログラム「大学経営基礎講座」を開講した。
- 教育研究と大学運営の高度化を担う教職員を対象とする大学マネジメント開発プログラムを実施した。
- 専門教育指導力育成プログラムの今後のあり方を検討し、DBER(Discipline-Based Education Research:DBER)を活用した TF(ティーチング・フェロー)の育成に努めた。さらに、研究室内教育ヘフォーカスする重要性から、2023 年度から「理系 PI をめざすための準備プログラム」を開講した。今後は文系も含めた研究室主宰者を志望する人を対象としたプログラムに発展させる予定である。

2.2 主な成果

本拠点における各種プログラムでは、評価指標を設定し、参加者数や参加者による評価(満足度等)及びプログラムの事後効果等に関する評価を行っている。さらに学内外のメンバーで構成される共同利用運営委員会を設置して、拠点事業全般について第三者評価に相当する検証を行うことで不断の改善にも努めている。以下は、全国の大学関係者のアクセシビリティを高めるべく実施した主な事項とその成果である。なお、本拠点における各プログラム開発等は、先駆的な取組として各大学や文部科学省から高く評価されている。

- 1 教職員の専門性として必要な「高等教育のリテラシー」「専門教育での指導力」「学生支援力」「マネジメント力」の4領域ごとの専門性開発(PD)セミナーの開発・提供と、専門性開発プログラム PDPonline の動画コンテンツを整理・拡充した。
- 2 PD セミナーに全国各地(32 都道府県)の多様な大学等(150 機関)から延べ 264 名の参加があった。参加者の満足度も 3.6(4 件法)とポジティブな評価が得られており、本拠点の取組は全国の大学教職員の専門性の向上に貢献していると評価できる。
- 3 オンライン・対面・オンデマンドを組み合わせた大学教員準備プログラム(PFFP)及び新任教員プログラム(NFP)を実施した。学内外の博士課程後期学生等を対象に大学教員準備プログラムを実施し、応募者は 33 名で、受講者 30 名全員が修了した。さらに大学教育経験の浅い全国の大学教員を対象に新任教員プログラムを実施し、受講者 6 名のうち 3 名が修了した。
- 4 「大学変革リーダー育成プログラム(TLP)」の後継プログラムとして、2023 年度に引き続き履修証明プログラム「大学経営基礎講座」を開講した。応募者は 39 名で、受講者 30 名全員が修了した。
- 5 「大学マネジメント力開発プログラム(SDP)」において、2024 年度は「大学経営人材育成プログラムの実践-2024 年度大学経営基礎講座開講ガイダンス-」というテーマでセミナーを実施した。16 都府県、計 28 機関から 36 名が参加した。

- 6 専門教育指導力育成プログラム(DTP)では、2023 年度より、将来の研究室主宰者(PI)育成を目的とした「理系 PI をめざすための準備プログラム」を専門教育指導力開発の一環として実施している。本プログラムでは、研究能力に加えて必要となる 4 つの主要能力(ラボ教育、国際感覚、リーダーシップとマネジメント、産学連携)の育成に注力している。様々な研究領域から 42 名の研究者が参加する 2 年間(全 19 回)のプログラムでは、各回のテーマに沿って研究室運営における暗黙知を可視化する議論が展開され、分野を超えた知見の交流と参加者同士のネットワーク構築が進んでいる。プログラムの実施方法としては、対面講演を基本とし、講演者との対話およびピア・ディスカッションを活発に行うことで学習効果を高めている(東北大学大学院教育学研究科『研究年報』72-2(2024))。また、対面参加が困難な学習者に対しては、動画視聴とリアクションペーパーの提出、講師からのフィードバック(FPIP 通信)という継続的学習プロセスを構築し、セミナー当日だけでなく長期的な学びの機会を提供することで高い満足度を得ている。プログラムの質向上のため、参加者の特性を俯瞰的に分析し研究成果として公表しており(工学教育 73 巻 2 号(2025、p49-59))、さらにカナダの研究遂行能力の高い PI 特性分析を本プログラムに応用することで、国際的視点を取り入れた教育内容の充実を実現している(未来教育研究所紀要第 13 集(2025、p14-21))。

2.3 プログラムの開発・実施

2.3.1 大学教員準備プログラム(PFFP)・新任教員プログラム(NFP)

Preparing Future Faculty Program / New Faculty Program

PFFP 及び NFP は、いわゆる「プレ FD」に該当するものである。PFFP は大学院博士課程に在籍している大学院生やポスドク等を対象に、他方で NFP は新任教員を対象に、大学教員としての能力開発に資する研修を実施するプログラムとなっている。CPD では、プレ FD プログラムを 2010 年度から実施していたが、2021 年度からは従前のプログラムを大きく変更して実施している。2022 年度からは、対象者別に以下のような区分で実施している。

- ・東北大学に在籍する博士課程後期学生を対象に、大学院共通科目「大学教授法開発論」を開講
- ・他大学を含む博士課程後期学生等を対象に、「大学教員準備プログラム(PFFP)」を開講
- ・教育経験が浅い全国の大学教員を対象に、「新任教員プログラム(NFP)」を開講

以下では上記のうち、教育関係共同利用拠点事業として実施している PFFP と NFP について実施内容・参加者数・受講者評価を報告する。

(1)大学教員準備プログラム(PFFP)

① 実施内容

大学教員準備プログラム(PFFP)は、教育関係共同利用拠点事業の一つとして、東北大学に在籍する博士課程後期学生の他、他大学の博士課程後期学生を対象にプレ FD プログラムを実施するものである。同プログラムは2010年より毎年開講していたが、2012年度以降は受講者が毎年10名を下回っていた。2021年度にプログラム内容及び開講期間を集中講義形式に変更するなどの改善を行い、東北大学の博士課程後期学生に限定して試験的に実施した結果、受講者数が大幅に増加した。これを受けて2022年度からは、同形式で全国の博士後期課程学生を対象に実施することとした。ただしプログラムの今後の継続性に鑑みて、受講料を徴収する形式に変更している。

2024 年度に開講した大学教員準備プログラム(PFFP)の概要は、以下のとおり。

大学教員準備プログラム(PFFP)の概要

応募期間	2024 年11月1日(金)～12 月 9 日(月)
応募者資格	全国の大学教員を志望する大学院博士課程後期の学生、日本学術振興会特別研究員、専門研究員など。国籍は問わない。原則すべてのオンライン及び対面授業に参加できる者。
募集人数	24 名程度
修了認定	所定の要件をクリアした受講者には修了認定書を交付 別途、東北大学オープンバッジも交付
実施期間等	全 4 日間、10～17 時 2025/1/23・24 はオンライン、1/30・31 は対面(東北大学川内北キャンパス)で実施 2025/1/25～29 は自学自習日及び移動日
受講料	9,000 円 *他に旅費・宿泊費(受講者負担)
講師	戸村 理 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授)

大学教員準備プログラム(PFFP)のスケジュールと内容

回	実施形態	研修内容
2025 年 1 月 23 日	オンライン	■午前:イントロダクション、大学・高等教育の現在 ■午後:学生理解、教授法、授業設計論、評価①
1 月 24 日	オンライン	■午前:評価②(ルーブリックの作成) ■午後:シラバスとクラスデザイン作成・「授業」のあり方の再考
1 月 25～29 日	—	自学自習日及び移動日
1 月 30 日	対 面	■午前:シラバスとクラスデザインの検討 ■午後:模擬授業の実施と評価①・懇親会
1 月 31 日	対 面	■午前:模擬授業の実施と評価② ■午後:学習内容のふりかえり・アカデミックキャリアを目指すにあたって

② 参加者数

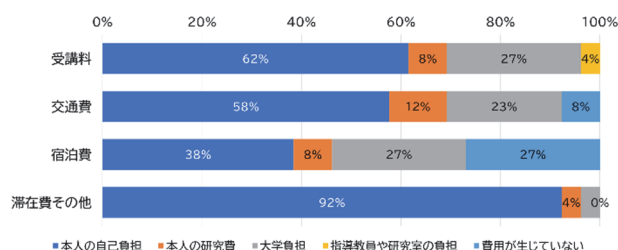
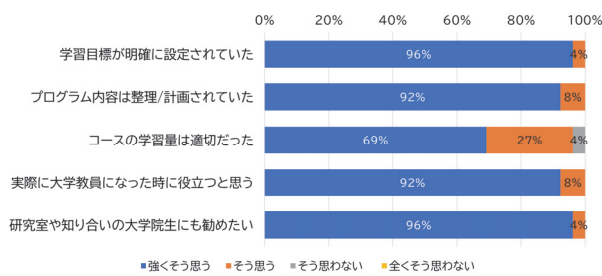
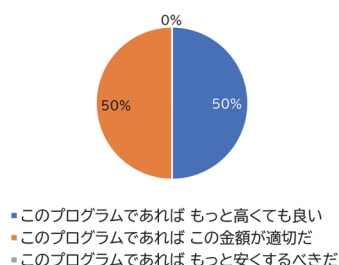
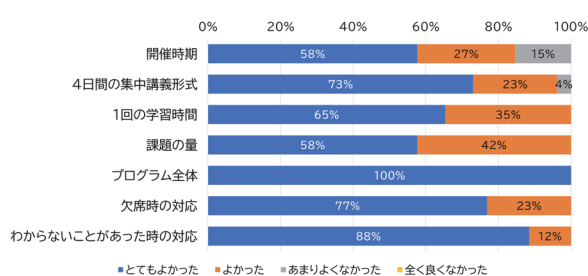
PFFP 修了者の所属地区と大学

地区	国立大学在籍者	私立大学在籍者	地区	国立大学在籍者	私立大学在籍者
北海道	0	0	東海・北陸	1	0
東北	9	1	近畿	1	8
東京	0	5	中国・四国	0	0
関東・甲信越	2	1	九州	1	1
			合計	14	16

日本全国の国公立大学から 33 名の応募があり、30 名が参加。修了者は 30 名。

③ 受講者評価

事後アンケート結果(概要)は以下のとおり。



「大学教員準備プログラム」(PFFP)の受講者評価

(左上:プログラム全体/右上:プログラム内容/左下:費用/右下:費用負担)

(2)新任教員プログラム(NFP)

① 実施内容

新任教員プログラム(NFP)は、教育関係共同利用拠点事業の一つとして、授業改善を試みる全国の新任教員を対象に、「知る」・「繋がる」・「試す」という 3 つの活動を通して、自己省察力を涵養し、大学教員として授業改善における試行錯誤の質を向上させることを目的に開講するものである。2022 年度からは従来のプログラムとは内容や実施方法に大幅な変更を行った。2024 年度に開講した新任教員プログラム(NFP)の概要は以下のとおり。

新任教員プログラム(NFP)の概要

応募期間	2024 年 8 月 1 日(木)～9 月 2 日(月)
応募者資格	全国の大学の新任教員(大学での勤務経験が概ね 3 年以下)
募集人数	15 名程度
修了認定	所定の要件をクリアした受講者には修了認定書を交付
実施期間等	2024 年 9 月～2025 年 1 月 オンデマンドで実施
受講料	無料
講師	山内 保典 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授)

新任教員プログラム(NFP)のスケジュールと内容

日程	タイトル	知る	繋がる	試す	授業概要(課題締切)
9/9(月)	リアルタイム(任意)	○	○		1. ガイダンス 2. 自己紹介
9 月	ガイダンス	○			
9 月	大学／大学教員の現在	○			1. 講義動画視聴 2. 確認テスト(24/10/7㍻切)
9 月	教育／評価	○			
9 月	学生	○			
9 月	科目設計／シラバス作成	○			
9 月	授業設計と実践	○			
10/3(木)	リアルタイム(任意)		○		1. 質疑応答(相談会) 2. 動画作成相談会 3. 授業参観のススメ
10 月	シラバス作成	○		○	1. シラバス提出(24/11/4㍻切)
10 月	授業動画作成	○		○	1. 授業動画(15 分程度)提出 (24/11/4㍻切)
10 月	授業参観とインタビュー(任意)		○		

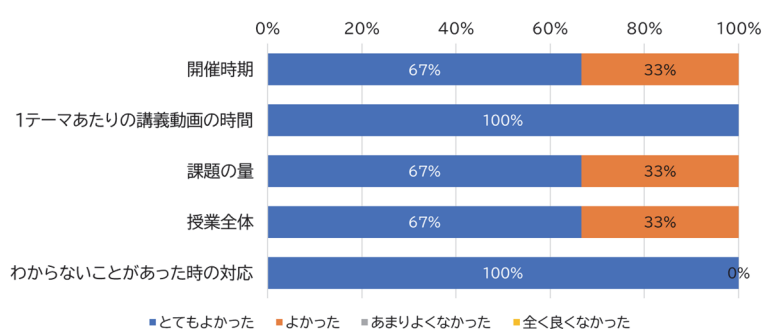
11/7(木)	リアルタイム(任意)		○		1. 質疑応答(相談会) 2. 相互コメントのお願い
11月	相互コメント		○	○	1. 授業動画に対して相互コメント (24/12/15㍻切)
1/27(月)	リアルタイム(任意)		○		1. 質疑応答 2. 振り返り

② 参加者数

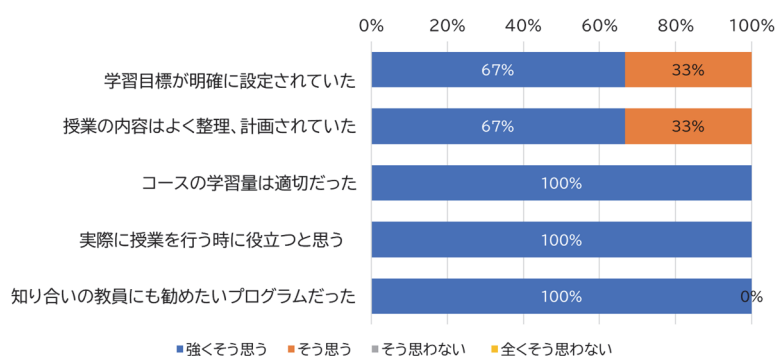
日本全国の国公立大学から6名の応募があり、6名が参加。修了者は3名。

③ 受講者評価

事後アンケート結果(概要)は以下のとおり。詳細は「4 資料」を参照。



「新任教員プログラム」(NFP)の受講者評価:プログラム全体



「新任教員プログラム」(NFP)の受講者評価:プログラム内容

2.3.2 大学経営基礎講座

Basic Program of University Management

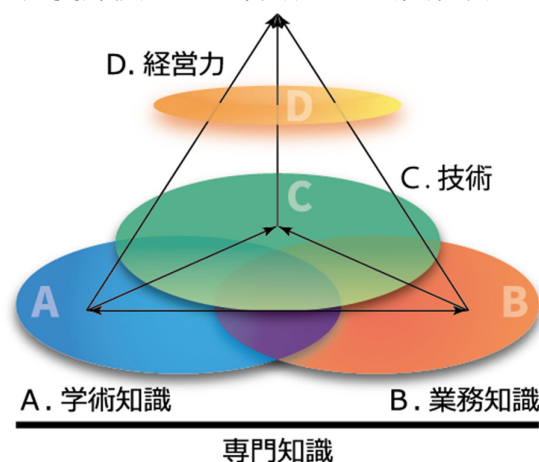
① 実施内容

大学マネジメントの高度化・複雑化を支える大学経営人材の育成が求められる中において、東北大学高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センターでは、2011 年度から大学教職員の能力開発を目的とする履修証明プログラムを実施してきた。2023 年度からは従前のプログラムの経験・資産を継承しつつ、コロナ禍後の新しい時代を見据えて、プログラム内容・受講期間・受講形態を一新した大学経営基礎講座を開講した。

大学経営基礎講座の目的は、「大学経営において大学教職員に求められる基礎的・共通的な専門知識・技術を大学リテラシーと定義し、それをトピック別の講義(オンデマンド)と演習(オンライン)によって身につけることで、これからの大学教職員に必要な経営力の醸成を促し、大学教職員としての中長期キャリア形成に資すること」とした。

大学経営基礎講座の教育課程は、必修科目と自由科目とで設計し、必修科目は全部で 4 つのトピック(科目)で構成し、それぞれ講義(オンデマンド)と演習(オンライン)がセットとなっている。4 つのトピックは「大学教育論」、「大学事務組織・法令論」、「大学財務論」、「大学マネジメント論」である。自由科目は「大学経営人材開発論」であり、毎回異なる中堅以上の大学教職員をゲスト講師に招き、受講者とディスカッションを行うことで、中長期のキャリアを展望する機会とした。

その他、大学経営基礎講座の概要は、以下のとおりである。



大学経営基礎講座の概念図

大学経営基礎講座の概要

応募期間	2024 年 5 月 21日(火)～6 月 24 日(月)
応募者資格	高等学校を卒業し、下記①～④のいずれかを満たす方。国籍は問わないが、日本語での参加に支障のない方。 ①大学その他高等教育機関の教職員(初期キャリア段階(概ね入職から 7 年までの方)を想定しているがこの限りではない) ②大学・高等教育の政策・行政にかかわる中央政府・地方政府及び関係機関の職員 ③大学団体の職員 ④その他、大学・高等教育に関心があり、将来、大学やその関係機関で職に就く意欲のある方
募集人数	24 名程度
科目構成	必修科目 トピックⅠ 大学教育論(15 時間) トピックⅡ 大学事務組織・法令論(15 時間) トピックⅢ 大学財務論(15 時間) トピックⅣ 大学マネジメント論(15 時間) 自由科目 大学経営人材開発論(8 時間*総時間数には含めない)
総学習時間	68 時間(必修科目 60 時間 自由科目 8 時間)

修了認定	所定の要件をクリアした受講者には履修証明書を交付 別途、東北大学オープンバッジも交付
実施期間等	2024 年 9 月～12 月(4 ヶ月間)
受講料	100,000 円
プログラム統括	戸村 理 (東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授)

必修科目の詳細

トピックⅠ 大学教育論

講師	戸村 理(東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授)
期間	動画視聴推奨期間 2024 年 8 月 30 日～9 月 20 日 演習回① 2024 年 9 月 21 日 演習回② 2024 年 9 月 28 日
概要	大学教育を歴史・制度・文化の観点から考察し、大学という経営体の構造と機能を理解する。詳細には、大学における教育活動の歴史的な理解、戦後日本における大学の量的発展と質的変容に関する理解、大学構成員(とくに教員)の特徴を理解する。

トピックⅡ 大学事務組織・法令論

講師	木村 弘志(一橋大学 職員) 長山 琢磨(学校法人東北学院 職員)
期間	動画視聴推奨期間 2024 年 9 月 21 日～10 月 18 日 演習回① 2024 年 10 月 19 日 演習回② 2024 年 10 月 26 日
概要	大学が教育研究の質を保証し、社会的信頼を獲得するうえでは、法令に基づき大学を運営することが不可欠である。本トピックでは、大学関係法令・設置基準と関連業務を題材として、法令・設置基準にかかる業務知識を獲得する。併せて、大学の業務を法令に基づき遂行する大学事務職員・大学事務組織について、その業務内容や特徴などを理解する。

トピックⅢ 大学財務論

講師	篠田 隆行(金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 教授)
期間	動画視聴推奨期間 2024 年 10 月 19 日～11 月 15 日 演習回① 2024 年 11 月 16 日 演習回② 2024 年 11 月 23 日
概要	大学という組織は国公立の区分に関係なく、長期的に存続することを前提として形成されている。存続を担保するためには財務的な安定度が重要となるが、18 歳人口の減少等の様々な外的要因も含め、大学の経営環境は厳しい状況にある。本トピックでは、大学という組織に属する構成員として大学財務を正しく理解する知識を獲得し、業務遂行における手法等を理解する。

トピックⅣ 大学マネジメント論

講師	荒木 利雄(福山大学 経済学部 教授 ※所属は 2024 年度時点) 塩田 邦成(大阪電気通信大学 学長)
期間	動画視聴推奨期間 2024 年 11 月 16 日～12 月 13 日 演習回① 2024 年 12 月 14 日 演習回② 2024 年 12 月 21 日

概要 大学組織全般の経営学的解釈を行うことで大学構成員の行動特性を理解する。その上で現在及び今後の大学に求められる組織マネジメントや人材育成の方向性を学ぶ。

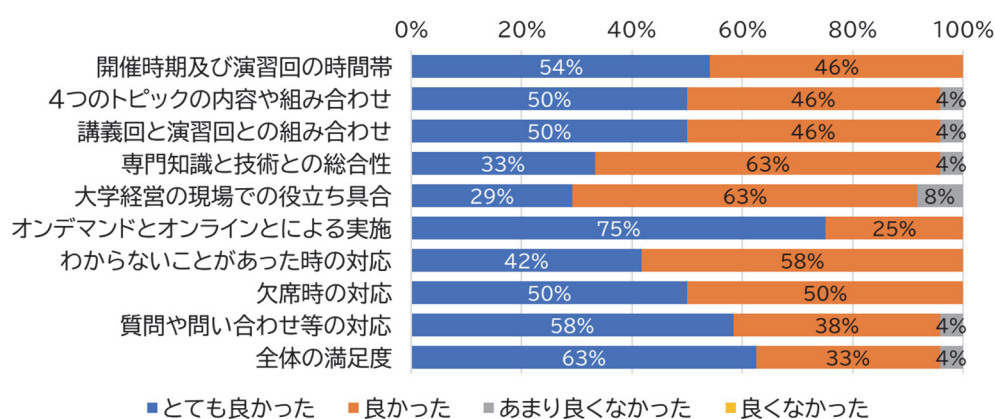
② 参加者数

日本全国から 39 名の応募があり、30 名が参加し全員が修了した。受講生については以下のとおり。

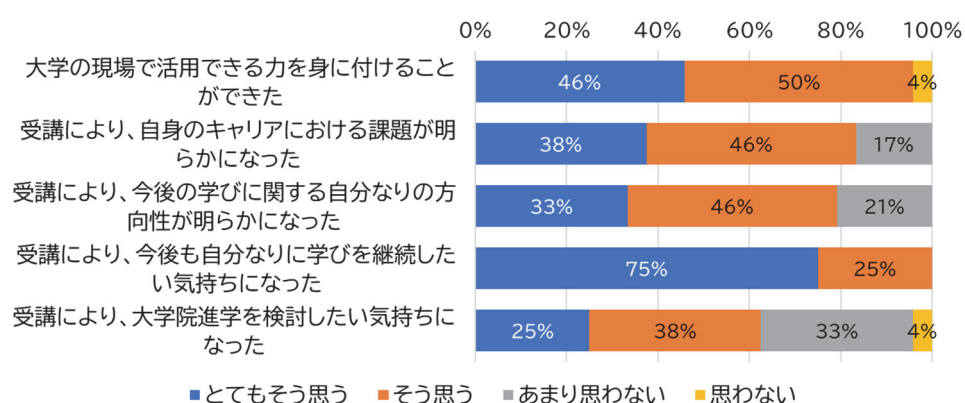
- ・国立大学 職員:4 名
- ・公立大学 職員:3 名
- ・私立大学 職員:22 名
- ・その他 1名

③ 受講者評価

事後アンケート結果(概要)は以下のとおり。詳細は「4 資料」を参照。



大学経営基礎講座の受講者評価:講座全体



大学経営基礎講座の受講者評価:講座受講のインパクト

2.3.3 大学マネジメント開発プログラム(SDP)

Staff Development Program

本プログラムは、2017 年度から義務化された新たな SD(職員だけでなく教員や大学執行部も対象とする)を踏まえ、教育研究や大学運営の高度化の担い手を育成することを目指すプログラムである。このような趣旨の下、大学執行部・教員・職員に共通に必要なとされる重要テーマを取り上げて、SDP シリーズを実施した。

① 実施内容

2024 年度は、「大学マネジメント力開発プログラム」(SDP)シリーズとして、「大学経営人材育成プログラムの実践 -2024 年度大学経営基礎講座開講ガイダンス-」(2024 年 6 月 1 日)を開催した。

② 参加者数

16 都府県、計 28 機関から、36 名参加。

③ 受講者評価

満足度:3.5(4 件法)



2.3.4 専門教育指導力育成プログラム(DTP)

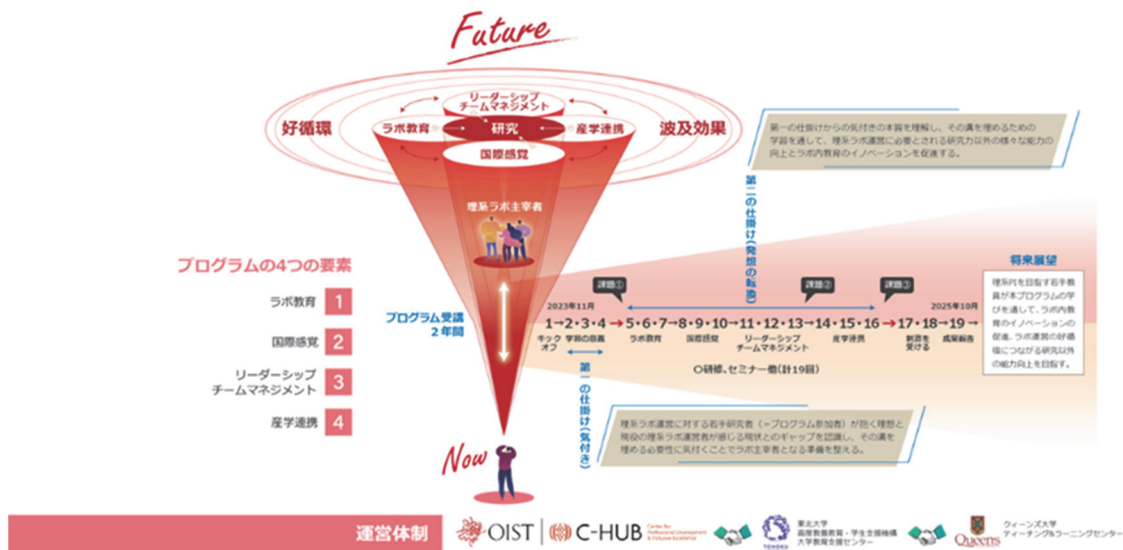
Discipline-Specific Teaching Program

専門教育指導力育成プログラム(DTP)では、ラボ主宰者(Principal Investigator: PI)を目指す研究者を対象に2023年11月より2年間の「理系PIをめざすための準備プログラム」を開講している。本プログラムでは、研究活動以外の能力開発を通じて、参加者が理系ラボPIとしての資質を養い、将来のラボ運営と発展に貢献できることを目標とし、東北大学CPDが特定した4つの重要要素(ラボ教育、リーダーシップ・チームマネジメント、国際感覚、産学連携)を中心に、これらのスキルを習得する機会を提供している。

理系 PI をめざすための準備プログラム

① 概要

このプログラムは、ラボ主宰者(Principal Investigator: PI)を目指す研究者を対象とし、東北大学 CPD が抽出した 4 つの要素(ラボ教育、リーダーシップ・チームマネジメント、国際感覚、産学連携)に焦点を当て、これらの能力を学ぶ機会¹⁾の提供、研究以外の能力開発を通じて、理系ラボ PI としての準備を整え、ラボの発展に貢献することを目指したプログラムである。



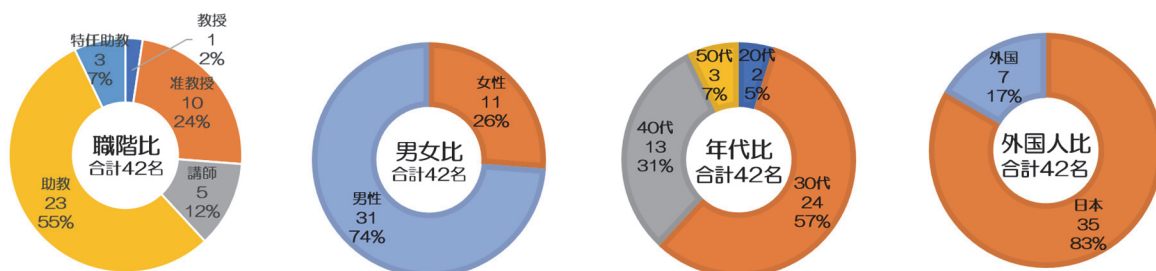
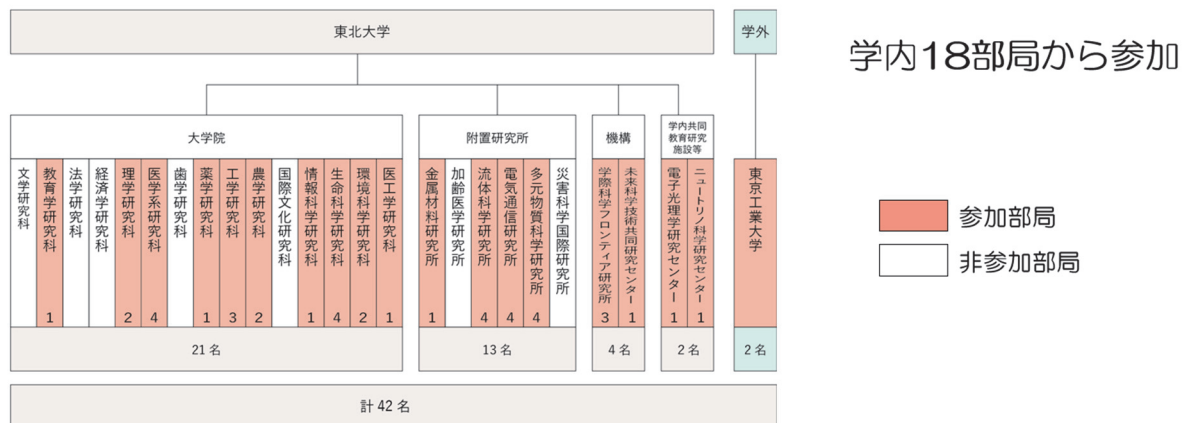
プログラム概要図

② 参加者

参加者は、東北大学 39 名(18 部局から参加)、他大学 3 名(東京工業大学 2 名、酪農学園大学 1 名)の計 42 名であった(酪農学園大学から参加の 1 名は 2024 年度より東北大学所属)。

参加者内訳

職 階:特任助教3名(7%)、助教23名(55%)、講師5名(12%)、准教授10名(24%)、教授1名(2%)。
男女比:男性31名(74%)、女性11名(26%)。
年 代:20代2名(5%)、30代24名(57%)、40代13名(31%)、50代3名(7%)。
国 籍:日本人37名(88%)、外国人5名(12%)。



③ 学習フロー

本プログラムの学習は、セミナー受講から始まり、リフレクション、フィードバック、オンデマンド再視聴、実践・応用、新たな疑問という循環型の学習サイクルを通して、ラボ教育やリーダーシップなどの能力を育成している。学習者がいつでもどこでも学べる学習環境として、対面・オンデマンドの学習環境を提供している。



③ メンターおよびプログラムスケジュール

2年間で次ページに示した19回のセミナーを行い、講師は、7割が東北大学教員、3割が他大学の教員が務める多彩なプログラムである。2023年度は第1回から第4回のセミナーを行った。2024年度は、第5回から第13回までの計9回のプログラムを提供した。

メンター教員		
大隅典子先生 副学長 (広範・タイバニティ担当)	折茂慎一先生 材料科学高等研究所 (AIMR) 所長	寺田真浩先生 副理事 (研究担当)
プログラム講師 (一部)		
佐野大輔 東北大学 工学研究科 教授 先端工学	井上史子 早稲田大学 大学院研究センター 教授 高等教育	Andrew Leger クイーンズ大学 Centre for Teaching and Learning Educational Development 教授 高等教育
高橋啓郎 東北大学 工学研究科 教授 工学研究科	Kathy Takayama 早稲田大学 (OIST) Executive Director for Professional & 分子工学 Diversity, Equity, Inclusion 教授 高等教育	仙石徳太郎 東北大学 工学研究科 教授 工学研究科
中村健博 東北大学 工学研究科 教授 工学研究科	岡田佳奈 早稲田大学 (OIST) 分子工学ユニット 准教授 工学研究科	水田俊彦 株式会社東北大学アーチ 代表取締役社長 知財担当

プログラム進行状況			
開催日時／テーマ	タイトル／講師	ポスター	
1st 2023.11.11(土) キックオフ			
2nd 2023.12.23(土) 学習の意義／現役ラボ主催者から学ぶ①	理系PIとしての日々の挑戦と時に葛藤 東北大学大学院工学研究科教授／野地智法		
3rd 2024.1.27(土) 学習の意義／現役ラボ主催者から学ぶ②	求められる東北大型PIと、その成立要件 東北大学大学院工学研究科教授／佐野大輔		
4th 2024.2.17(土) 学習の意義／現役ラボ主催者から学ぶ③	素数な理系PIを目指して一経験からの学びとこれから 東北大学大学院工学研究科教授／高橋啓郎		
5th 2024.4.20(土) ラボ教育／理系ラボとSoTL	大学教員とSoTLー自律的・持続的な教育活動の改善を目指して 早稲田大学総合研究センター教授／井上史子		
6th 2024.6.15(土) ラボ教育／理系ラボにおけるSTEM教育およびDBER	これからの研究室ー学問のあり方を添えてー 京都大学国際教育研究推進センター准教授／宮野公樹		
7th 2024.7.27(土) 理系ラボにおけるメンタリング	学問分野による教育研究法とラボメンタリング 東北大学大学院教育学部教授／中村健博 東北大学高度教育・学生支援機構学術研究員／和田由恵		
8th 2024.8.31(土) 理系PIに必要な国際感覚とその実践	Establishing globally competitive research careers: developing your international toolkit 早稲田大学 (OIST) 教授／キャンシー高山		
9th 2024.9.28(土) 海外大学における理系研究主宰者とディベートする	沖縄の新しい大学で理系ラボを立ち上げたPIとのディベート 沖縄科学技術大学院大学(OIST)准教授／岡田佳奈		

本プログラムのメンターには、東北大学の副学長、AIMR 所長、研究担当副理事など、研究室運営から大学運営まで幅広い経験を持つ方々が就任しており、多角的な視点からの助言を行っている。また講師陣は、東北大学所属の教員が 7 割を占め、異なる大学から参加する教員が 3 割を担当する、幅広い専門性を持つプログラムとなっている。

2024.10.22(土) 10th 海外大学からの気付きを言語化する	Becoming a principal investigator in a globalized world CONICET Reference Centre for Lactobacilli (CERELA) Principal Researcher / Julio Villena	
2024.12.7(土) 11th 理系ラボ主催者のロールモデル	4 半世紀前にあった実験系PIでの経験 東北大学大学院理学研究科化学専攻教授／寺田真浩	
2025.1.18(土) 12th 理系ラボ主催者に必要とされる研究インテグリティ	責任ある研究活動：知のインフラへの貢献 東北大学副学長 (広報・共同担当)・附属図書館長／大隅典子	
2025.2.8(土) 13th 理系ラボおよび研究組織を統括する人材から学ぶ	唯一無二の研究者・研究所を目指して 東北大学材料科学高等研究所(AIMR)所長・金属材料研究所教授／折茂慎一	
2025.4.19(土) 14th 理系ラボ主催者に求められる研究の社会実装 申込みは こちら	Inventorから生まれInnovatorに産業界はなぜ期待するのか 一大学研究者が生み出す社会的価値創造ー Amazon Web Services Japan 常務執行役員／エンタープライズ事業統括本部事業統括本部長／堤浩幸	
2025.5.17(土) 15th 理系ラボ主催者に求められる知財戦略	唯一無二の研究者・研究所を目指して 東北大学材料科学高等研究所(AIMR)所長・金属材料研究所教授／折茂慎一	
2025.6.7(土) 16th 理系ラボ主催者に求められるアントレプレナーシップ	東京科学大学環境・社会理工学教授／仙石徳太郎	
2025.8(予定) 17th トップサイエンティストと交わる①	東北大学・海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム高等研究所 (AIMEC) 研究 所長／渡賀 利雄	
2025.9(予定) 18th トップサイエンティストと交わる②	東北大学電気通信研究所 ナノ・スピニング実験施設 スピントロニクス研究室 教授／深見 俊輔	
2025.10(予定) 19th 成果報告会		

⑤ 参加者分析

近年企業でも取り入れている特性プロファイリングは、自己理解と相互認識を促進し、グループ学習の効果を最大化するとともに、職位や研究経験に基づいたオーダーメイドの能力開発機会を創出することから、本プログラムでも次のように参加者分析を行い、工学教育 73 巻 2 号(2025、p49-59)にて報告した。

【実施日】2024 年 2 月 17 日(土) 欠席者は、オンラインでの説明会後に回答

【対象】 理系 PI をめざすための準備プログラム参加者

【方法】 Google フォームにて回答

【回答率】 90.5%

これらのアンケート結果を分析したところ、主成分分析により、参加者の特性を表す 2 つの主要な成分が特定された。

第一主成分(PC1):研究者としてのキャリア経験を反映しており、発表論文数や研究マネジメント経験などの要素が強く寄与している。PC1 のスコアにより、参加者は研究キャリアの初期段階(特任助教・助教)のグループと中堅段階(講師・准教授)のグループに分類された。

第二主成分(PC2):国際感覚や教育活動に関する要素を反映しており、海外渡航回数や英語使用頻度、担当講義数などが強く影響していた。PC2 により、国際的活動に積極的なグループと教育活動に注力しているグループの違いが明らかになった。

これらの成分を組み合わせることで、参加者は少なくとも次の 3 つのグループに分類が可能であった。

- 1.国際的に活躍する研究人材グループ
- 2.教育活動にも力を注ぐ研究人材グループ
- 3.研究活動に注力する若手研究者グループ

この分析結果は、参加者が自分自身と他の参加者の特性を理解し、多様な視点からの議論を深めるためのツールとなる。また、プログラム運営者にとっては、参加者の特性に応じた効果的な学習環境の設計や、職階ごとの特性に合わせたオーダーメイド型のアドバイス提供を可能にする。特に准教授の国際的活動の時間確保など、特定の課題に対する支援策の検討にも役立てることができる。

⑥ 活動状況

2024 年度は第5回から第 13 回の計 9 回のセミナーを行った。内容は 3 つのシリーズに分かれており、1 つはラボ教育、2 つ目は国際感覚、3 つ目はリーダーシップとマネジメントに関するシリーズであった。これらのセミナーでは、講演のなかで、参加者同士のディスカッションが行われるが、その際には参加者分析を活用し、自分と考え方が近いグループ、逆に考え方が異なるグループとの意見交換を意図的に促進した。

このように多様な特性を持つ参加者間での対話を通じて、自分自身の思考の偏りに気づき、新たな視点を獲得する機会を提供することができた。特に、国際感覚のセミナーでは、PC2 の指標で国際的活動が活発なグループと教育活動に注力しているグループを意図的に分けたり、混合するなどし、それぞれの経験や課題を共有することで、互いに学び合う場を創出した。また、リーダーシップとマネジメントのセミナーでは、キャリアステージの異なる参加者(PC1 で分類)がチームを組み、若手研究者の斬新な発想と中堅研究者の経験知を融合させた議論が展開された。

参加者からのリアクションペーパーでは、セミナーを重ねるごとにポジティブな表現が増加し、特に後半のセミナーでは「自分とは異なる特性を持つ研究者との対話から多くの気づきを得られた」、「自分の強みと弱みを客観的に認識する機会になった」といった肯定的な評価が多く見られるようになり、プロファイリングを活用した対話の促進が効果的であったことが確認された。

2.3.5 専門性開発セミナー(PD セミナー)

Professional Development Seminar

拠点事業に認定されて以来、日本の高等教育の多様性に対応すべく、大学教職員の専門性開発に必要な 4 領域「高等教育のリテラシー」「専門教育での指導力」「学生支援力」「マネジメント力」を設定し、専門性開発 (Professional Development: PD)のための各種 PD セミナーを企画・提供している。

① 実施内容

本拠点では、国内外の高等教育における先端的な課題を取り上げ、高等教育の多様な領域をカバーするとともに、当該領域の第一人者によるセミナーを提供することで、セミナー参加者の能力開発に努めている。2024 年度もオンラインと対面で実施・提供するとともに、参加者の一層の便宜を図るべく、午前中に実施した。これにより広く全国から参加者を集めることができた。セミナーの詳細は、「4 資料」を参照されたい。

② 参加者数

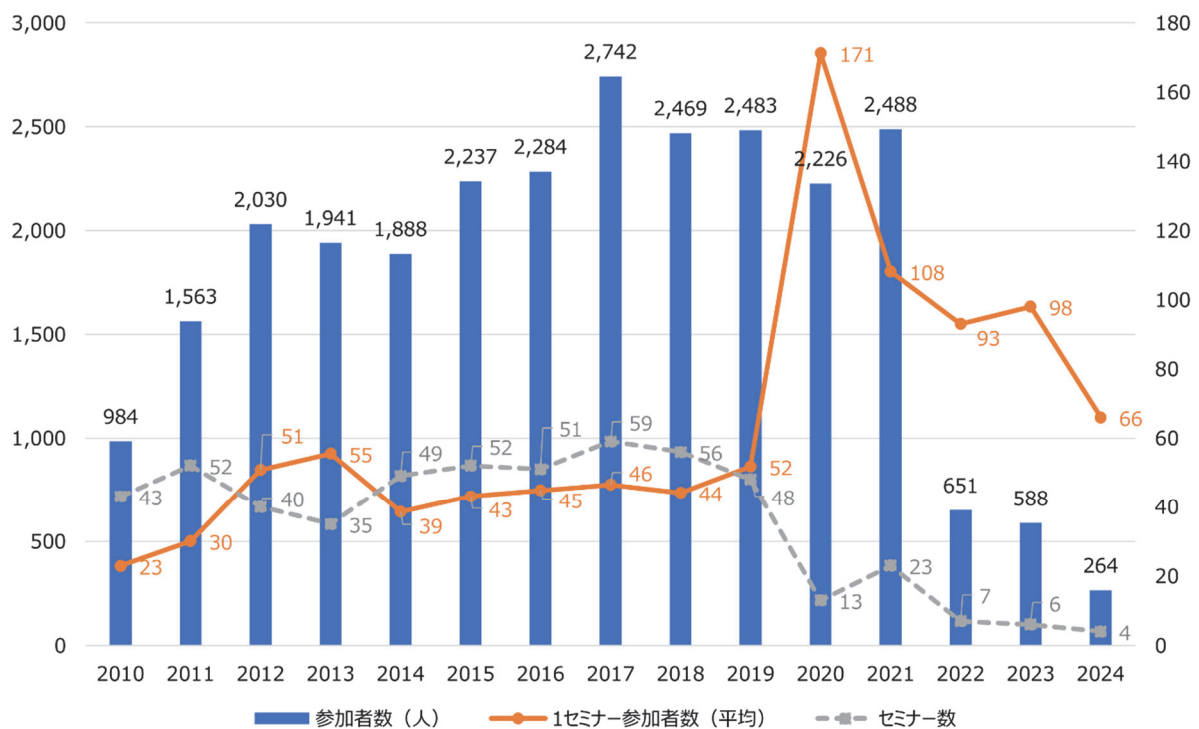
全国 32 都道府県、計 150 機関から、延べ 264 名参加

*2022 年度より、参加者数の集計方法を変更した。

③ 受講者評価

満足度:平均 3.6(4 件法)

総じて高い水準にあり、高等教育の多様な領域をカバーすることで、セミナー参加者の能力開発に貢献した。



PD セミナー開催数・参加者数(2010-2024 年度)

2.3.6 PDPonline(専門性開発プログラム動画配信サイト) Professional Development Program-online

実施した PD セミナーの一部を厳選して動画化し、PDPonline として自由に視聴できる e-learning 教材を提供している。利用は無料。個人で利用する場合は、登録不要である。他方、機関単位で利用する場合は、機関利用申請を行うことで、各大学の FD・SD 研修等に利用することも可能としている。

① 実施内容

PDPonline は、PD セミナーの一部を厳選して動画化し、オンライン上で広く公開することで、全国の大学教職員の専門性向上を支援することを目的として、逐次研修コンテンツを拡充してきた。各動画はトピックの内容ごとにチャプターとして分割し、10～15 分前後の動画として順を追って再生できるように編集している。

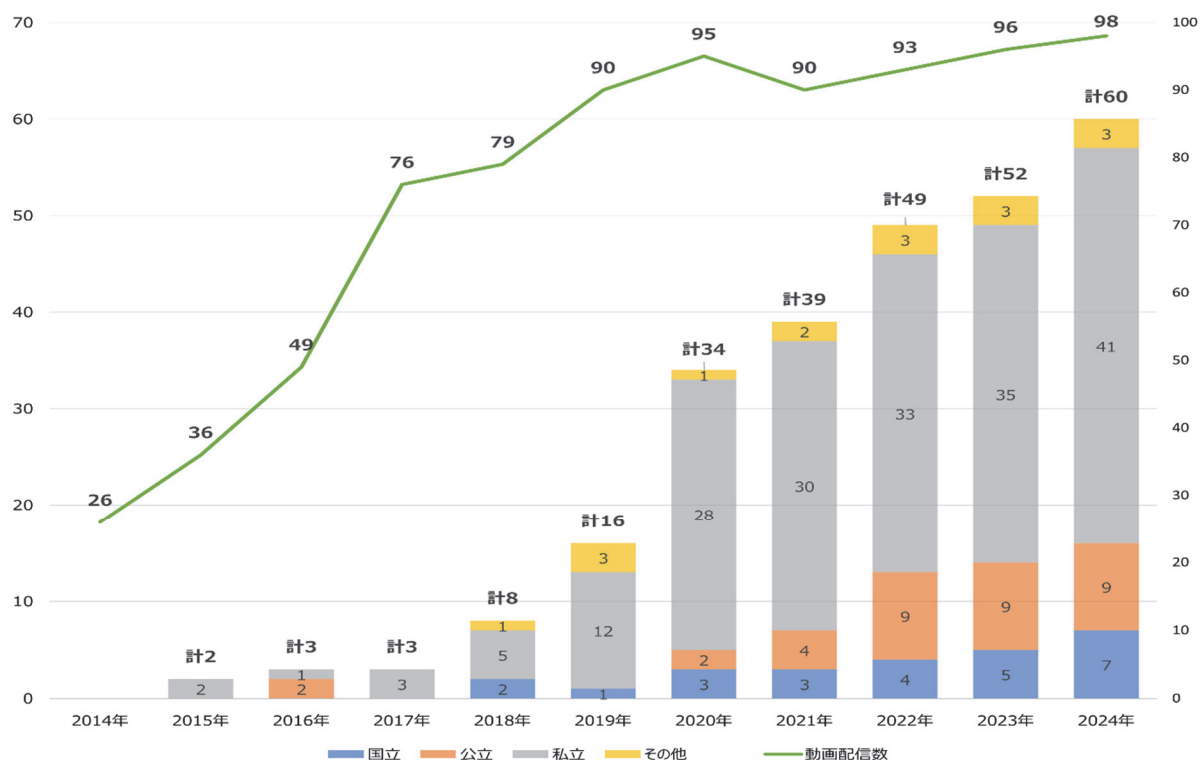


PDPonline ウェブサイト

② 利用者数等

2024 年度末時点で計 98 件の動画が配信されている。これらの動画コンテンツは、個人が自由に視聴できるだけでなく機関単位での利用にも供しており、大規模大学から中小規模大学まで、大学の FD 研修等において活用することが可能である。機関利用数は 2024 年度末の時点で 60 機関である。その内訳は、国立大学 7、公立大学 9、私立大学 41、民間組織 3 であって、対前年度 8 機関増となった。

PDPonline は遠隔による能力開発の機会を広く日本全国に提供するものであり、質的にも量的にも国内で類を見ない規模のコンテンツとなっている。



PDPonline の利用機関数(設置形態等別)・配信数

3 メンバー

3.1 大学教育支援センター教員・支援スタッフ等

教員	
野地 智法	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター長、農学研究科 教授
戸村 理	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授
山内 保典	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授
大森 不二雄	高度教養教育・学生支援機構 教授
杉本 和弘(兼務)	高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター長、教授
中村 教博	東北大学客員教授・名誉教授
支援スタッフ	
和田 由里恵	学術研究員 ※2024 年 7 月～2025 年 1 月除く
塚部 恵	事務補佐員
稲田 ゆき乃	学術研究員 ※2024 年 9 月まで
遠藤 直子	事務補佐員 ※2024 年 9 月まで

3.2 大学教育支援センター共同利用運営委員会委員

氏 名	所属、職名
野地 智法	東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター長、農学研究科 教授
戸村 理	東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授
山内 保典	東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター副センター長、准教授
山口 昌弘	東北大学副学長、高度教養教育・学生支援機構 副機構長、理学研究科 教授
大西 直文	東北大学工学研究科 教授
野口 和人	東北大学教育学研究科 教授
位田 隆一	一般社団法人 国立大学協会 専務理事
柳澤 康信	倉敷芸術科学大学 学長
吉武 博通	学校法人東京家政学院理事長、筑波大学名誉教授
井上 史子	早稲田大学 教授
深堀 聡子	九州大学 教授
小出 秀文	日本私立大学協会 常勤常務理事

4 資料

4.1 プレFD(PFFP・NFP)アンケート

(1)大学教員準備プログラム(PFFP)

1. プログラム(東北大学 PFFP)全体について(N=26)

	とても良かった	良かった	あまり 良くなかった	全く 良くなかった
開催時期	58%	27%	15%	0%
1 週間の集中講義形式	73%	23%	4%	0%
1 回の学習時間	65%	35%	0%	0%
課題の量	58%	42%	0%	0%
プログラム全体	100%	0%	0%	0%
欠席時の対応	77%	23%	0%	0%
わからないことがあった時の対応	88%	12%	0%	0%

2. プログラム全体についてご意見がありましたら教えてください。

- ・講師の先生からご指導頂く内容が大変分かりやすく、すぐに実践的に活用できると思えた内容ばかりであった。
- ・該当しない項目もあるため、対象外などの項目が欲しい。
- ・同意書を提出しなくてはいけないのが大変だった。
- ・時期について:ほかの方もそうかと思いますが、学年末の課題や、学会の準備などと重なり、大変でした。
- ・欠席について:欠席不可だと思い、やるべき仕事があったのですがそちらを諦めて参加しました。事前に相談すればよかったのだ、とあとで気づきました。
- ・1 月下旬で色々切も迫る時期だったので、この時期が良いかは不明ですが、本当に学びたい内容なので頑張って参加しました。非常勤講師のお仕事を今年度の秋学期からいただき、全て自分で組み立てるといふ大学講義のシステムに困惑している中、その背景からどのように講義を組み立て、講義を行い、どのように評価すればよいのか学ぶことができ、本当に良かったです。いつ非常勤のお仕事がいただけるのか(いつどんなチャンスが来るか)は、誰にも読めないで、全ての博士学生の履修必須の講義にしてほしいぐらいです。
- ・事情により一部を欠席せざるを得なかったのですが、参加させていただいたことを嬉しく思っています。また、代替課題も無理のないもので大変助かりました。
- ・どんな時期になったとしても、この講義を最後まで受講できてとても良かったです。また、博士論文最終審査等のために、代替案でご対応いただきましてありがとうございます。
- ・時期は丁度良かったと思います。結局はいつでも時間を作って参加するところが大切なので、時期は相当だと思います。とはいっても、最終審査などによる欠席の代替対応などありがとうございました。
- ・ちょうどよい分量に感じました。おそらくかなり取捨選択にご苦労されたのだろうなと存じました。一日目の午後(集中力が切れてきたころ)に教わった内容をかなり忘れていたことに最終日気づきましたが、それは他のかたがたも同じだったのがアンケート調査で分かり、それも含めて勉強になりました。
- ・とても充実していて、満足度の高いプログラムと感じました。
- ・資料も大変わかりやすく、学習を進める中でとても役立ちました。
- ・開催時期はこの時期だといつでも難しいと思っています。一般的に 3 月だと新年度が近く、2 月だと学内発表(卒研、中間、修士博士)で、12 月 1 月は発表準備が忙しいので。今回は自分の方に少々トラブルがあり、対面までの 1 週間でシラバス作成や模擬授業の方に割ける時間が少なくなっていました。では 2 週間あれば十分だったかと言うと、それだと授業内容を忘れやすく、各項目を模擬授業に反映しにくくなるかと思うので、やはり今の時期や日時がベストかと感じました。
- ・博士後期 2 年で、修論や博論といった大きな制約がなかったため、参加しやすかった。
- ・全く教育系の授業を受けたことがない身からすると、4 日間での詰め込み式はかなり厳しかった。特に前半二日間のリモート講義では後半ついていけなかったように感じているので、もう少し日数を取ってもいいからペースダウンして教えていただいてもいいかもしれないと感じた。
- ・個人の問題ですが、繁忙期のこの時期ではなく、夏頃だと参加しやすいと思います。他大学から参加する者にとって集中講義方式は参加しやすいです。ただ、土曜日が含まれると社会人は参加しやすいと思います。特に遠方から参加の場合、プラス1日は移動日が必要となりますから。課題の量が実際に多いかどうかはわかりませんが、個人的に業務の繁忙期、育児をしながら、課題をこなすのはとても大変でした。その分終了時には達成感がありました。立派な修了証明書もそんな気持ちを更に高めてくれました。プログラム構成や内容もきめ細やかなサポート体制も整っており、大変有意義なプログラムでした。
- ・欠席時の対応は欠席していないので実際の感想はわかりません。なので可もなく不可もない評価としました。
- ・開催時期はできれば雪の時期を避けて頂きたいというのが、雪国から参加する者の正直な思いです。出発の時まで天候を気にし、参加できるのか不安でした。
- ・課題の量は多いです。多いけど必要だと思います。やり切った時の達成感も入れて、アンビバレントな思いで「よかった」としました。
- ・内容が多いので、オンライン授業をもう一日増やしても良かったと思いました。

3. プログラムの内容について

	とても良かった	良かった	あまり 良くなかった	全く 良くなかった
学習目標が明確に設定されていた	96%	4%	0%	0%
プログラムの内容はよく整理、計画されていた	92%	8%	0%	0%
コースの学習量は適切だった	69%	27%	4%	0%
実際に大学教員になった時に役立つと思う	92%	8%	0%	0%
研究室や知り合いの大学院生にも勧めたいプログラムだった	96%	4%	0%	0%

4. 3で「あまり良くなかった」「全くよくなかった」と回答した方は、その理由を教えてください。

・先ほども述べたように、私にとっては開催期間内では情報量が多かった。だが、全てとても勉強になったことは事実なので、量を変えずに期間を1-2日増やしてもらえたら嬉しい。

5. 東北大学 PFFP(大学教員準備プログラム)で、もっとも役に立った授業は何ですか？(3つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
1日目午前:イントロダクション、大学・高等教育の現在	6人
1日目午後:学生理解・教授法・授業設計論・評価①	12人
2日目午前:評価②・(ルーブリックの作成)	7人
2日目午後:シラバスとクラスデザイン作成	10人
3日目午前:シラバスとクラスデザインの共有・検討	12人
3日目午後:模擬授業①	17人
4日目午前:模擬授業②	10人
4日目午後:模擬授業のふりかえり・アカデミックキャリア・まとめ	10人

6. 5で選んだ理由をお書きください。

- ・どれも良かったので、特によかったものを選出させて頂きました。やはり2日目で作成したシラバスとクラスデザインシートを対面で他の受講生の方と意見交換しつつ、それに戸村先生からアドバイスを頂けたことが良かったからです。
- ・自分の授業に対する他の人のフィードバックを生で受けられる機会は非常に新鮮だった。また、座学でこれまで知らなかったことを知れたため。
- ・実践的に学ぶことができ、自分の身についたと思います。
- ・4日間の講義は全て必要という前提で選んでいます。ただ、3つを選んだ理由は今の自分が知りたい内容が知れたという理由です。模擬授業で2日目を選んだ理由としては、1日目の模擬にお世話になった先生は、先生のご経験から来る知識やご意見で1つの理想を示されているイメージでした(恐らく我々が示されている模擬授業の前提もご存じないのではないかと感じました)。ただ、講義として1つの理想を示されるのは大切ですが、ルーブリックがあるように、新米教員の講義レベルの発展も数段階に分けて良いのではないかと思います。初めての教員は、1回の講義をするのが精いっぱいなので、そこで理想だけを示されると、本当に初めて教壇に立つ状況では対応できないと思います。最初に教壇に立つその日をイメージした助言などもあれば嬉しいと思いました。それに対し、2日目にお世話になった先生は、個々の学生の専門や講義の設定に合わせて、様々な引き出し(状況に合わせた事例や対応)を教えてください、1日目のモヤモヤを解決できる助言をいただけ、さらに勉強になりました。
- ・実際にはプログラム全てがためになったと思っています。やはり授業をするという実践に関わる講義や演習は先生の適切なご指導もあり、大きな学びを得ることができたと感じています。
- ・模擬授業を録画し、自分で見返すなかで、姿勢が悪かったり一方向しか見ていなかったりといったそれまで意識していなかったクセに気づくことができたため。
- ・実践で使えるスキルと、なかなか聞くことの出来ない貴重なお話を教授いただけたからです。
- ・作成の難しいシラバスやクラスデザインの検討をできた事、さらに授業を作ることも色々考えると、なかなか難しくやりがいがあったからです。
- ・アカデミックキャリアを歩む上で必須だと思ったから。
- ・シラバスを初めて作成したので、その方法や注意点について教えていただけて勉強になりました。
- ・これまで、学生として、あるいはTAとして、いわば半分学生の立場で大学生活を送ってきました。そのため、大学の授業に関する規則や流れについてある程度理解してはいたものの、その視点は限られたものでした。今回、教員の立場から改めて教育を学び、理解する機会を得られたことは、私にとって非常に貴重であり、大きな意味を持つものです。初めての模擬授業では、皆まだごちなさが残るものの、専門ごとの授業の進め方や異なる教育スタイルを直接見ることができ、大きな驚きと気づきを得ました。とても参考になる経験でした。

教育には共通する部分があり、2 回目の模擬授業では全員が大きく成長していましたが、それでも 1 回目の模擬授業で受けた衝撃のほうがより印象に残っています。

- ・すべてよかったので迷いましたが、やはり実践ありきなところはありましたし、他の参加者の方々と切磋琢磨できたことによる学びが大きかったです。
- ・大学・高等教育の現在を学びたいと思っていたことと、その歴史的変遷とともに詳しく知ることができたからです。
- ・大学教員力ともいえる、学生理解・教授法・授業設計論を学びたいと思っていたことと、受講を通して、より詳しく学ぶことができたからです。
- ・シラバスとクラスデザインの作成手法を学びたいと思っていたことと、実際に作成してみたことにより、担当科目を深く広く理解することの必要性和何を伝えるべきか(教えるべきか)を改めて考えることができたからです。
- ・以上に加え、模擬授業をあげたいと思います。ビデオで自身の授業を振り返ることで、5で選んだ内容がきちんと身について実践できていたかを確認することができ、大変勉強になりました。
- ・全ての項目で有意義な学びがあったのですが、新しく得た知識として自分のキャリアプランへの影響の比重が大きい点を選択しました。
- ・理論的な知識をいくら勉強しても、実践しないと身についているとは言えないです。そして、他人からの意見やアドバイスは、ほとんど自分が気づかなかった点ですので、すごく勉強になりました。
- ・1 日目午後は、一般的な知識を知ることができたため、自分に足りていない理解を補うことができたと思っている。3日目は、受講者同士で議論し合えたことで、シラバス、クラスデザインシート、模擬授業の良い点、直した方がよい点を知り、自分を省みることができたと思う。また、選択肢制限があったため、チェックを入れなかったが、4 日目午後の、模擬授業をペアで振り返る時間は、全体では言いにくいことなどを素直に議論できたため、とても有意義な時間だったと思う。
- ・今後、公募等で必要とされるスキルですので、その向上に非常に役立つと感じました。
- ・いろんな分野のメンバーと意見交換できたことが、普段できないことだったのですごく良い経験になった。
- ・より実践的に必要な知識スキルを学べた。また他の方の模擬授業をみたり、意見をもらえるのは非常に貴重だったから。
- ・5の項目すべてが、大変役に立つ内容で3つ選択することが難しく感じるほどでした。しかしながら、大学・高等教育の歴史と現状から学ぶことは非常に多く今後の大学教員のあるべき姿勢と立ち向かうべき課題が明確となりました。その点をふまえた学生理解、教授法、授業設計論は、その後に続いたシラバスとクラスデザインの作成や模擬授業を行う上での考慮すべき要素として大変役に立ちました。これらの点をふまえて選択をさせていただきました。
- ・知りたいと思っていたことであったり実際に使ってみようと思えた授業内容でした。
- ・シラバスとクラスデザインシートの検討は作成者の様々な思いや工夫が聞け、自分とは違う角度からの意見が聞けたことが学びになりました。
- ・とにかく座学→実践→議論がよかった。また、大学の先生にならなければ学んだことも最大限活かせないのがアカデミックキャリアについても教えていただけてよかった。
- ・今まであまり考えたことがありませんでしたが、時代や現在置かれている大学の状況を知ることは自分の将来を考える上でとても重要なことに気づきました。そのため、1 日目の大学・高等教育の現在を知ることはとても有意義でした。ルーブリックの授業では、自分で作ってみる他に、参加されている方と成績評価における考え方の違いを共有することが大きな学びになりました。模擬授業では、ボディランゲージや話し方、声の出し方、間の取り方などシラバスだけでは見ることで見えない特徴がよく分かり、皆さんの個性を知るきっかけにもなり良かったです。
- ・本当は3つ以上を選びたいと思いました。他人を教育する立場になると尺度が必要で、それを4日間の授業を通して以下の内容について理解しました。人を教育するという深い学問であり、この学問の基本趣旨を理解しました。学術的なキーワードを理解し、疑問がある時の検索する方針を理解しました。一種の表現する技術であること、どの様に表現していくかのイメージが付きました。

7. 東北大学 PFFP(大学教員準備プログラム)で、もっとも難しかった授業・大変だった授業は何ですか？(3つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
1 日目午前:イントロダクション、大学・高等教育の現在	1 人
1 日目午後:学生理解・教授法・授業設計論・評価①	9 人
2 日目午前:評価②・(ルーブリックの作成)	12 人
2 日目午後:シラバスとクラスデザインの作成	16 人
3 日目午前:シラバスとクラスデザインの共有・検討	3 人
3 日目午後:模擬授業①	12 人
4 日目午前:模擬授業②	5 人
4 日目午後:模擬授業のふりかえり・アカデミックキャリア・まとめ	2 人

8. 7 で選んだ理由をお書きください。

- ・1回実施した模擬授業を改良して、再び同じ内容を話す必要があったため。ただここでの大変さは自分自身にとって有益なものなので、難しかったですが、大変ためになるものでした。
- ・シラバスとクラスデザイン作成、模擬授業の準備が大変だったが良い機会だった。
- ・初めての経験だったので、手探りの作業となったから。

- 最後のテストは難しかったですが、良い学びになりました。これから、学生の期末レポートを採点するための良い心構えができました。
- すべての講義や演習を楽しくこなすことができました。まとめを選んだのは、最後の確認(テスト)で一部の解答が十分にできなかった自身の反省を込めたためです。
- ルーブリックを全く知らなかったため。
- 講義を受講して、実際にツール作成をしてみたら、色々考えることも多くとても難しかったからです。特に授業を行うことは、とても難しかったです。
- やはり作成する授業は難しかったです。授業も 10 分位ならと思っていましたが、実際にスライドを作り出すと難しく、考える事が沢山ありました。
- 初めての経験であったことと、より専門的だったから。
- 実際に作成したシラバスやクラスデザインシートについてグループで共有し、説明することが難しく感じました。作っている段階では気づけなかったことや、お互いの大学によってことなる価値観や考え方、環境の違いでシラバスが大きく異なったことなど、気づきの多い時間であった為選びました。また模擬授業の2回目の方が、1回目より難しく感じました。1回目の改善をと、思い挑みましたが、改善できたこともあればできなかった部分もあり、さらに新たな問題にも気づいたため、難しく感じました。
- 一回目の模擬授業は、かなり挑戦的な経験でした。まず、これまでの学生という立場から抜け出し、教員として授業を行うこと自体が容易ではありませんでした。
- 授業を組み立てる際には、想像以上に多くのことを考慮する必要がありました。たとえば、授業内容や進行のペース、大学 1 年生が興味を持ってくれるか、理解しやすいか、一方的な学術発表のようにならず、どのように双方向的な授業にするか。また、教員としての自信や適切なジェスチャーも重要な要素でした。
- しっかりとした授業を準備することの難しさを、改めて実感する貴重な経験となりました。
- 大事な話だと思いますが、理論的な話が多く、一回聞いただけではなかなか消化しきれない内容だったためです。とはいえ、折に触れて見返したいです。
- 評価・ルーブリックの作成: 目的の設定が難しかったため、大変だったと感じました。
- 自分の都合で作成に割ける時間が少なくなってしまったためです。シラバスとクラスデザインの作成はなんとか完了しましたが、模擬授業の授業資料の作成の方がほぼ時間を割けませんでした。発問を組み込む構成には一応なりましたが、オープン・クエスチョンとクローズド・クエスチョンの方への発展ができず、模擬授業①の後に変更して②までに間に合わせるのも難しかったです。
- ルーブリック、シラバス、クラスデザインの作成は、簡単にできるものではなくて、いろいろ考えなければいけないですので、すごく手間がかかりました。特にシラバスとクラスデザインを作成するとき、シラバスからクラスデザインまでという順番で完成するはずですが、クラスデザインを作成してみて、やはりシラバスにある部分を調整すべきだという考えがよく出てきました。結局、繰り返しながら作成していました。
- 1 日目午後の内容は、最後のテストで十分身についていないことが分かったため、時間帯などの問題もあると思うが、覚えた方が良い知識が多かったように思う。
- 2 日目午後の内容は、単純に課題として大変だった。特に、一般教養科目と言われた時に、どんな内容が適切かを考えるのが、一番大変だったように思う。また、一般科目の授業をするとは思っていなかったで、どのように展開するのが良いかを考えるのも大変だった。
- 3 日目午後は、初回の模擬授業だったため、どんな反応があるか不安であり、精神的に一番大変な場面だったと思う。
- まだ実践経験が多くない部分でしたので、より良い評価。ルーブリックを作るためにはどのようにすればよいか時間をかけて熟考しました。
- 初めて聞くことばかりで理解が追いつかない部分もあった。
- 教育経験がないので、知識では学んだものの実践を想定するのが難しかったから。
- 第2日目の午後に至るまでの講義では、これまで大学教育を行う上で十分に理解していない部分がありました。講義で学んだ点をシラバスとクラスデザインに落とし込みながら作成することは、模擬シラバスとクラスデザインであっても非常に考えさせられましたので選択させていただきました。
- 全く未経験でイメージできず苦労しました。特に模擬授業は、やったことのないことをやってみせるのが難しく大変でした。
- 自分で 1 から作ったため、とても難しかった。例えば、教養科目ゆえに難易度を調整しなければいけない点や、考えてきた模擬授業が自分の想定した内容と高校卒業したての学生という点で。
- モデルの名前がたくさん出てきて、名前は覚えていても内容が頭に残っていないものがたくさんあります。4日間という短い期間なので詰め込み式になるのは仕方ないとは思いつつも、一つひとつのモデルの内容をもう少し深く理解したかったと思いました。
- シラバスとクラスデザインの作成がとても難しかったです。何をどこまで書くか、表現をどのように選ぶか、についてとても悩みました。

9. 費用についてお聞かせください。受講料(9,000 円)についてどう思いましたか？

質問項目	回答人数
このプログラムであれば、もっと高くても良い	13 人(50%)
このプログラムであれば、この金額が適切だ	13 人(50%)
このプログラムであれば、もっと安くするべきだ	0 人(0%)

10. プログラムに参加するにあたり、だれが費用を負担しましたか？

	本人の自己負担	本人の研究費	大学負担	指導教員や研究室の負担	費用が生じていない
受講料	62%	8%	27%	4%	0%
交通費	58%	12%	23%	0%	8%
宿泊費	38%	8%	27%	0%	27%
滞在費その他	92%	4%	4%	0%	0%

11. 費用についてご意見がありましたら、お聞かせください(よろしければ受講料の具体的な金額もお聞かせください)。

- ・大学によっては、負担しているところもある(D 大学)らしいので、他大学でそのような事例があると示して貰えると、自身の所属先に交渉しやすい。
- ・私の大学は費用を負担してくれるわけではないので、負担してもらえる大学の学生を羨ましく思った。
- ・適切にチェックを入れましたが安いと思います。ただ、学生の費用負担としては、これが限度だと思いました。
- ・特になし。交流会の参加費も破格だと感じたものの、もう少しだけ飲み物(量)があるとよかった。
- ・費用については、もう少し高くても良いと思いました。
- ・講義の質の内容や会場の設営、ディプロマの質を思うと格安だと思いました。
- ・このくらいが妥当だと思います。
- ・適切な値段であると思います。
- ・奨学金が支給されたため、個人的にはとくに何も思いませんでした。遠方で自費参加の方の感想をお伺いしたいです。
- ・今回の受講料の倍くらいでも良いのではないかと思います。
- ・自分が授業から得た知識の有用性を考えれば、もっと高くても良いと思います(一般的な公開講座の受講料は)。参加希望者も年々増えていますし。ただ、移動費が自己負担の場合(自分はほぼ京都から新幹線で往復 4 万くらいでした)は、貧乏学生の身からすると、受講費自体で万を超えると厳しいです。
- ・大変充実したプログラムで 9000 円というのは大変有り難いです。もっと高くても参加すると思いますが、交通費宿泊費があるのでそのままの金額だと助かります。
- ・自己研鑽のために必要な費用かと考えております。金額も適切だと思いますので特に意見はありません。
- ・プログラムの内容から考えてとても安価であると感じました。仕事関係の研修では 1 日でも 2 万程度が相場でしたので。しかし交通費や宿泊費もかかるので、研修費が安価であるのは大変助かりました。
- ・趣味クラスが月四回で一万/月、普通の学会参加も 5000 円前後であること等を考えると、単純に計算して6万円以上の価値がある授業と思います。一方、在学生が多く参加することを考慮し、低くても 2 万 5 千円～は妥当かと思います。

12. このプログラムをどのように知りましたか？(いくつでもお選びください)

質問項目	回答人数
自分が所属している大学からの連絡・掲示	24 人
X 等の SNS	0 人
自分が個人で登録している大学イベント関係のメーリングリスト	0 人
その他	3 人

13. 12で「その他」を回答された方は、よろしければどのように知られたかを教えてください。

- ・阪大からの紹介。
- ・昨年度 PFFP を受講した知り合いからの紹介。
- ・東北大学の TF 研修を受講した際に知りました。

14. プログラムの運営面も含めて、その他ご自由にご意見をお聞かせください。

- ・貴重な機会を頂き、ありがとうございました。実は昨年度に既にプログラムのことを知っていたのですが、その時はスケジュールがあわず、今年度に参加させて頂きました。近く必要になる知識やスキルが数多くプログラムを通じてご指導下さり、今後の自分自身の教育活動を支える羅針盤になりました。ここでの学びを10年、20年と活かせるよう、頑張ります。東北大学に来ることができて良かったです。ありがとうございました！
- ・意欲的なみなさんと学ぶことができて、大変刺激を受けました。
- ・戸村先生の授業の進め方や、私たちへ伝える方法についても、よく分かり、4 日間頑張っについていこう！と、思えました。とても良い機会をありがとうございました。
- ・本当に勉強になりました。戸村先生をはじめとする先生方やスタッフの皆さまに心よりお礼申し上げます。もし、今後採用されれば、ご報告させていただきます。寒い日が続きますが、くれぐれもご自愛くださいませ。
- ・今回参加させていただけたことを、とても嬉しく思っています。比較的珍しい分野で研究をしていることもあり、普段は他分野の方とお

話す機会がなかなかありませんでした。しかし、このプログラムは分野問わず受け入れてくれているため、大変貴重な交流の機会を得ることもできました。また、プログラムの内容自体も充実していたと感じています。オンラインの2日間も(オンラインにもかかわらず)時間的な長さを感じませんでした。それも戸村先生の腕によるものだと気がつき、その授業展開の手法も学びになりました。対面の模擬授業も、受講者全員が協力的で楽しく行うことができました(最初はやや嫌悪感がありました)。自身の動画を見るという反省(修行)の場を嫌でも作ることの重要性も理解できました(2日目にはほとんど慣れていた)。模擬授業はグループでの実施でしたが、2日間同じグループになれなかった方のものにも参加してみたかったです。また、受講者同士の意見交換ももちろん役に立つのですが、実際にすでに何年も教壇に立っている先生方からあえて厳しい意見をいただいてもよかったのではないかと多少感じました(批判的に感想を述べるとしても、受講者同士ではその点についてはやはり遠慮しがちになってしまっていたように感じました。また今回ご教授いただいた先生方は物腰も柔らかく、厳しい意見をいただいてもそれが必要なのだとすぐに理解できそうであったため)。戸村先生をはじめ、ご指導いただいた先生方、スタッフのみなさまにお礼申し上げます。本来はこうした講義や演習は各大学院で行うべきだと感じています。それでも門戸を閉ざすことなく多様な学生を受け入れてくださっているプログラムに心より感謝申し上げます。私の研究分野ではこのプログラムへの参加者は少ないと思いますが、博士課程の知り合いにはぜひおすすめしていこうと思っています。改めて充実したプログラムをありがとうございました。

- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・他大学の学生さんと知りあえたことが良かったです。色々な研究内容や本講義を受講しようと思った動機、将来の進路などひとそれぞれでいろんなことがあるんだなと何う事もできたからです。
- ・この度は、とても学びの深い講義を受講する機会を与えてくれてありがとうございました。歯科臨床教育を考えるなかで、しっかりと教育を学ぶ貴重な機会でした。この4日間で全てマスターしたとは、思っていません。これからもここで出会った仲間と共に、どの様に今後生かして、行っているのか、どんな勉強をはじめたのかなど共有して行きたいです。相談できる仲間を持てた事はとても大きな励みになりました。戸村先生、塚部様ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。とても良い経験ができました。
- ・他分野の博士課程学生やすでにポスドクの方など様々なバックグラウンドを持った方々とお話することで自身の見分が広がり非常に学びの多い期間となりましたことをお礼申し上げます。本プログラムを通して、研究者と教育者どちらか一方ではなく、どちらも非常に大切であることを改めて考えるきっかけとなりました。
- ・このような貴重な機会をいただき、心から感謝しています。先生の授業はとても明快で丁寧に構成されており、論理の流れがスムーズでありながら、適度な緩急もあって非常に分かりやすかったです。オンラインでも対面でも、ディスカッションの場面では的確に導いてくださり、要点をしっかりとまとめてくださるので、学びをより深めることができました。また、先生だけでなく、グループの皆さんの真剣な姿勢や集中力にも大きな刺激を受けました。こうした学習環境の中で学べたことは、私にとって本当に貴重な経験です。先生や皆さんの熱意や優れた点に触れるたびに、自分自身を振り返る機会にもなり、多くのことを学ばせていただきました。皆さんの素晴らしいところをたくさん感じることができ、この密度の濃い学びの時間は、私の人生の中でも特別なものになったと実感しています。短い間でしたが、本当にありがとうございました。温かく迎えてくださり、一緒に学ぶことができたことに心から感謝しています。皆さんの今後のご活躍をお祈りしています。
- ・①とても楽しかったです。仙台では毎日懇親会や宴会や食卓にて、専門分野の全く異なる(物理、バイオ、宗教、音楽、スポーツ、IT、ジェンダー、救急、歯科、地震...)参加者同士、交流を深めることができ、大変貴重な機会でした。正直、ここまで楽しく学べるとは思っていませんでした。②以前より、自分が授業しているところの動画を撮ってみた方がいいて聞いてみました。しかし、恥ずかしくてやってきませんでした。ただ、今回、自分の授業風景を歯を食いしばって見返すことができ、この作業にいくらか慣れることができました(何度も見返していると、自分の姿にも慣れてきました)。今後も自分の授業風景を撮影し、授業をブラッシュアップしていきたいと思いました。③主担当の戸村先生だけでなく、模擬授業の際にゲストの講師の方々にもコメントいただき、勉強になりました。本当にありがとうございました。
- ・4日間、本当にありがとうございました。今回のプログラムで教えていただいたことをしっかりと復習し確実に身につけられるよう努めたいと思います。
- ・懇親会についてですが、食事が多すぎず、会話を誘発する丁度よい量かと思いました。時間はもう少し長くても良いのではないかと感じました。参加者全員と会話したいと思ったくらいなのですが、4割くらいとしか会話できなかった。長くする場合は炭酸飲料等のペットボトルで用意されていた飲料を1.2倍くらいにすると丁度良いのではないかと思います。
- ・実践的な教授に関する内容で、とても勉強になりました。新たなことを知れたと同時に、様々な議論を重ねたことで、自分の授業に対する考え方も少し変わったように思います。
- ・非常に濃い4日間を過ごさせていただきました。中でも対面での2日間は全国の異なる分野の博士課程学生、ポスドクの方々と日夜様々なお話をすることができ大変勉強になりました。模擬授業やシラバスの作成は公募戦線を戦う自身の将来にとって必要不可欠なスキルですので、このような機会をいただけて大変感謝しております。今回のプログラムでの気づきと学びを糧に引き続き教育力の向上に取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・修了証明書やオープンバッジをもらえるというのは魅力的にうつりました。
- ・今回、所属大学からの情報によりプログラムに参加しました。大学教員として教育に携わるにあたり、何らかの基礎的な教養を身に付けておくべきと考えておりましたので大変教務深く、また有意義に研修を受けさせていただきました。座学では、グループワークを交えながら大学・高等教育の歴史と現況、学生理解・教授法・授業設計論を十分に学ぶことができ、今後も自己学習を進めることができるのではないかと感じました。また、シラバスとクラスデザインの作成、受講生による模擬授業は、非常に実践的で同じ受講生同士の建設的なフィードバックと活発な議論ができたことは、大変勉強になりました。対面でのプログラムでは、議論を交わせなかった方もわずかにおりましたので、すべての方々から意見がいただけたらさらに新しい意見が聞けたのではないかと感じました。しかしながら、4日間のプログラムの中で期待していた以上の内容でプログラムを受けさせていただきましたこと大変感謝しております。ありがとうございました。

た。

- ・授業内容の資料(冊子など・購入でも良いので)があれば嬉しいです。
- ・以下のことを、課題や模擬授業、意見交換を通して、身をもって学習できて有意義なプログラムでした。「大学の歴史や意義、教授職に今後求められることの学習」、「15 回の授業やシラバスの作り方と注意点の学習」、「模擬授業の実施と改善」、「教授職を目指す、さまざまなバックグラウンドを持った方とのコミュニケーション」、「教授職になるためには」。
- ・大学教員になるという夢を持っている方に、ぜひおすすめしたいです。ひとに教えるということは、単に自分の知識を話すだけではないということ、研究者は学ばなければならないと思います。そして、学生の分からないことをどこまで自分事として引き入れ、内省し、わかってもらおうとするのか、忍耐も必要なことを今回の PFFP で学びました。そして何よりも、戸村先生をはじめプログラムに参加していたすべての人が優しく親切で、敬意を持って接してくださいました。4日間だけだとしても PFFP の場所を主体的に作ろうとする皆さんの姿勢が良い雰囲気を作っていました。本当に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・オンライン授業時間を実際の時間より少し長めの時間を設定しても OK と思いました。授業の内容を振り返り、もう一回内容を見たいと考えています。指導して頂いた先生方、調整して頂いたスタッフの方々、皆様にあらためて心より感謝致します。

※アンケート回答のうち、受講者の個人情報が特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。

(2)新任教員プログラム(NFP)

1.「東北大学 NFP(新任教員プログラム)」全体について(N=3)

	とても良かった	良かった	あまり 良くなかった	全く 良くなかった
開催時期	67%	33%	0%	0%
1 テーマあたりの講義動画の時間	100%	0%	0%	0%
課題の量	67%	33%	0%	0%
授業全体	67%	33%	0%	0%
わからないことがあった時の対応	100%	0%	0%	0%

2. 授業について

	とても良かった	良かった	あまり 良くなかった	全く 良くなかった
学習目標が明確に設定されていた	67%	33%	0%	0%
授業の内容はよく整理、計画されていた	67%	33%	0%	0%
コースの学習量は適切だった	100%	0%	0%	0%
実際に授業を行う時に役立つと思う	100%	0%	0%	0%
知り合いの教員にも勧めたいプログラムだった	100%	0%	0%	0%

3. 2で「あまり良くなかった」「全く良くなかった」と回答した方は、その理由をおかきください。

回答なし

4.「東北大学 NFP(新任教員プログラム)」で、もっとも役に立った授業は何ですか？(2つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
大学／大学教員の現在	1人
教育／評価	1人
学生	0人
科目設計／シラバス作成	1人
授業設計と実践	0人
授業動画／シラバス提出	2人
授業動画相互コメント	2人

5. 4 で選んだ理由をお書きください。

- ・大学教育の現在の状況は、初めて飛び込む身としては知りたいところでした(勉強する方法がわからない、また一から調べる時間が中々なくまとまって知ることができる機会がなかった)。授業動画については、ここまで集中的に作成し、指摘し合うような機会はないままありましたので、大学教育の基礎としてこれからの土台を構築できたと思っています。
- ・授業を考えるための各種情報を把握することができた。自身の動画を撮影し、自分で気づく点があった他、先生方からのコメントにより客観的に課題を把握することができた。

6.「東北大学 NFP(新任教員プログラム)」で、もっとも難しかった授業は何ですか？(2つまでの複数回答可)

質問項目	回答人数
大学／大学教員の現在	0人
教育／評価	0人
学生	0人
科目設計／シラバス作成	1人
授業設計と実践	0人
授業動画／シラバス提出	3人
授業動画相互コメント	1人

7.6 で選んだ理由をお書きください。

- ・動画作成にあたって、作成スキルと環境が提出日までに十分に自分に整いませんでした。結果として、自分としては現状精一杯ですが、かなり不備のある状態(しかし学会、入試シーズンに突入しており、それを自分で補う時間は全然取れず)で、ひとまず何とか今の状態を出すことが目標になってしまったことが、少々悔やまれました。
- ・授業動画、シラバスを作る経験はない人にとっては、難しいです。
- ・自分の動画を撮影することは、心理的なハードルもあり、なかなか実施できないものであると思う。今回プログラムに参加したことで、良いきっかけとなった。今後も、適時、動画チェックを行ってみたい。

8. その他、授業について、改善点、感想など何でもご自由にご意見をお聞かせください。

- ・本プログラムで学んだことは、日ごろ勤務先や出身研究室の中でも周囲とも共有したり、議論したりし話題にしていました。個人的には、月に一回のオンラインでのミーティングが対面であれば、さらに先生方と一歩踏み込んだ内容のディスカッションができたのではないかと(かつてはそのような形だったかと思うと)過去の修了者を羨ましく思うところでした。このことは費用面では賛否あるかと思いますが、私は意欲ある人材にとっては大切なことなのではないかと思っています。私の在籍する博士課程の大学や勤務大学では、東北大学のような大学教員の準備をするプログラムはなかったのも、実は戸村先生の大学教育史の講義が、将来の日本の大学教育をどう見据えていくか、という重要な問いと向き合う上で、私には大変興味深かったです。私は今の日本の学术界、大学教育の現状にはかなり問題意識をもっています。日本の研究と教育は今後どうなっていくのかという問題について、今直面する「大学はどうあるべきなのか」という課題から、より真摯に考えて続けていきたいです。もしもご負担でなければ、一回完結と言わず、今後も引き続きご指導・ご助言頂ける機会やネクストアクションとなるような機会に立ち会えましたら、何より幸いと存じます。この度は、貴重な機会をありがとうございました。
- ・負担感なども丁度良かったです。ありがとうございました。

※アンケート回答のうち、受講者の個人情報が特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。

4.2 大学経営基礎講座アンケート

講座全体

1.1 講座全体について(N=24) ※集計上 100%にならない場合もある

	とても良かった	良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった
開催時期及び演習回の時間帯	54%	46%	0%	0%
4つのトピックの内容や組み合わせ	50%	46%	4%	0%
講義回と演習回との組み合わせ	50%	46%	4%	0%
専門知識と技術との総合性	33%	63%	4%	0%
大学経営の現場での役立ち具合	29%	63%	8%	0%
オンデマンドとオンラインとによる実施	75%	25%	0%	0%
わからないことがあった時の対応	42%	58%	0%	0%
欠席時の対応	50%	50%	0%	0%
質問や問い合わせ等の対応	58%	38%	4%	0%
全体の満足度	63%	33%	4%	0%

1.2 講座全体についてご意見がありましたら教えてください。

- ・私にとって「大学経営基礎講座」は、とても有意義なものであった。特に以下の4点については、他の研修等では習得できない内容であった。1.大学職員としての幅広い基礎知識を習得ができたこと。2.参加者と講師の皆さまのベクトルが同じであったこと。3.自大学のケースを用いて、講座を進められたこと。4.オンライン開催であったため、全国に仲間ができたこと。今回の講座では、自大学という小さな枠を超え、討論ができたことで、自大学だけが抱えている問題ではなく、他大学でも同じような問題を抱えていることを認識でき、さらに1つの解決策まで議論ができたことが良かった。もし、要望を一つ言えるのであれば、プログラムとして、東北大学を会場として、対面で講義をしていただけたとよかったです。
- ・講座に参加して良かったのは何が分からないのかが明確になったことです。特に、法令や財務については正解がある中でかなりの知識不足である点を認識しました。大学職員が総合格闘技であるということがとても腑に落ちました。また、全国から様々な職員の方と出会えたこと、各大学の実務の話聞いたことが良い刺激になりました。ありがとうございました。
- ・参加者が多いため難しいことは百も承知だが、各課題への評価(A、B、C、Dなど)とフィードバックが欲しかった。
- ・講座内容の設計ももちろんですが、課題の意図を説明していただいたり、様々な場面で受講生に配慮していただいたおかげで、気持ちよく、モチベーションを落とすことなく受講を終えることができました。また、講座外での交流を促していただけたことも、ありがたかったです。
- ・講義回と演習回が組み合わせられているところに魅力を感じ受講したが、演習回があることでより理解が深まったと感じており、この点については期待通りだった。
- ・講座の機会をいただきありがとうございました。演習のグループワークについては、自分自身のグループワークへの苦手意識から、消化不良になってしまうことがあり、限られた時間での対応の難しさも感じました。
- ・「大学とは」から始まり、その後各論に行くスタイルとはとても良いと思う。欲を言えば設置の話はあったが「教務事務の基礎(教育プログラム・カリキュラム開発とか?)」「研究支援の基礎(外部資金の管理サイクル、地域と大学連携?)」についても科目としてあればよかったと思う。
- ・「大学事務組織・法令論」は、設置の事例から考えていくスタイルであったが、その事例が国立大学のH大学という偏差値60以上の大都市の指定国立大学という得意な事例であり、平均的な大学が来ている参加者には、あまり参考にならない点があるのではないかとと思われる。
- ・受講生の経験が、(大学職員以外の方を除くと)3年くらいから20年越の方も見られたが、上限は10年くらいにした方がいいと思う。若い方は年齢差(経験差)がありすぎて話しづかったのではないと思う。
- ・人数も30名だと、顔と名前が一致しないです。募集要項の24名でよいのではないだろうか。
- ・時間が90分ですと慌ただしいです。100分授業を採用している大学もありますので、100分でもよいかもしれない(学習時間の整理が大変になるかもしれませんが…)。
- ・今後、この講座の受講生から業務界をリードする人材がでてくると思います(すでに受講生でセミナー講師をされている方もおられました)。今後、第1期、第2期といった「期」をこえたネットワークを模索していかなければならないと思います(これは運営側というより受講生側の問題です)。その点を理解しての運営側へのお願いですが年一回でいいので、「期」をこえたネットワークづくりの場を作ってもらえるとありがたいです。
- ・おそらく、20代の大学職員の方が、40・50代となるころの大学職員業界は少子化で悲惨なことになっていると思います(なので、今の大学事務局トップのロールモデルや仕事のやり方は、さして参考にならない)。そのような環境でも生き残っていける大学を作れる人材(この参考となるのは40歳代のフロントランナー的な大学職員ではないだろうか)から、学ぶ機会を更に進めてほしいと思います。
- ・全てオンラインかつオンデマンド、講義回で知識を取得して(インプット)、演習回で各受講者の持っている知識や考え方を活かして課題を作成して他の受講者からの意見も得る(アウトプット)というスキームが非常に良かったです。他の似た類の研修では、アウトプットやそのフィードバックを得る機会があまりなく、本研修では様々なバックグラウンドを持った他の受講者の考え方をすぐに知ることができ

るため、すぐに気づきを得る機会があることも良かったです。

- ・講義回と演習回の組み合わせ、課題の内容等、全体の構成がとても考えられており、毎回の TOPIC で新しい気づきや考え方を学んだと実感しました。戸村先生のお話の方法や進め方がちょうどよい雰囲気の中で心地良く楽しく参加させていただきました。分からない場合や不安な場合のお声がけも多数いただき、そのサポートもとても安心できました。
- ・まずは、講座を受講させていただいたことに感謝申し上げます。特に毎回のグループワークなどで受講生のみなさんとお話できたことはよい刺激となりました。講義回では、とても勉強になったと思う回もあった一方で、少々おざなりのように感じた回もありました。自腹で受講したこともあり辛口で回答しています。短期間でまとめる講座ですし、(もしも自分自身が講義をする側であつたら先生方のようにはいできないわけですから)受講生側からの大きすぎる勝手な期待です。演習課題について、他の受講生の方に共有する関係もあり、大学名を記入するのではなく、設置形態や規模などを選択するフォーマットであればなと何度か思いました。通常、学外の研修などで情報を持ち出す場合や、所属大学の職員として意見交換の場に参加する際は予め上司の承認を得ています。今回の講座では、なるべく公開している資料を用いましたが、職務として受講しているわけではないこともあり少々取組み辛いと感じた場面がありました。これは需給バランス的にはよくないのかもしれませんが、せっかくの東北大学の講座ですから、外部資金の獲得であつたり、他大学の講座では提供が難しいような内容も扱っていただけるような機会がありましたら、またぜひ勉強させていただけますと幸いです。
- ・4 か月間の講座運営、誠にありがとうございました。4 つのトピックの内容については、受講者それぞれの経歴、経験によって内容の中には既知のものがあつたと思いますが、大切なことはそこではなく、自分ひとりの経験や知識として終わらせるのではなく、同じ大学職員として働いている受講者間で意見を交わすことで新たな視野や視点を獲得することだと感じ、各演習回が大変有意義な時間でした。人材育成の中で叫ばれているように、答えのない問いに対して自分なりの答えを見つける力が必要視されている中、大学(職員)の置かれている立場としても、まさに何をすれば確実に生き残れる、いい学生を育てることができるということではなく、自分自身ひいては自大学自身で答えを見つけていくしかない講座を通して感じました。そういった意味では今後の日本、世界にとっての高等教育に大学職員が必要であることを再確認できた講座でした。今はまだ役職も何もない専任職員ですが、数年後に大学にとって大きな意思決定に関わることを想定して、今から自分自身を磨き続け、将来は価値を発揮できる人材へと成長したいと思います。
- ・オンラインという特性を活かしながら、Google Classroom で常に講師や運営担当の方へ質問や意見交換ができる場が設けられている上に、隙間時間に課題や録画授業に取り組めるような工夫がなされており、働きながらの受講生に対して親身にサポートしてもらえ体制が整っていることが非常にありがたく感じました。また、全国各地の様々な規模で、かつ国公立の様々な立場の受講生とグループワークを通じて意見交換できたことは、単に貴重な情報交換だけでなく、ネットワークの構築や自分自身の能力開発の時間として、とても有意義な時間になりました。
- ・財務に関する知識や法令について、事例を上げながら具体的に学ぶことができ、非常にわかりやすかったです。他の大学マネジメント系の履修証明プログラムでは、前提知識として詳しい解説は割愛され、少し理解に苦しむことがあつたので、今回のプログラムでクリアになる点が多く良かったと感じました。学内では、他に他大学の履修証明プログラムに参加する人が少ないのですが、こちらのプログラムは参加しやすかったですし、なにより戸村先生をはじめ運営の塚部さんや講師陣の皆様が非常に丁寧に接してくださるので、他の職員にも参加を勧めたいと感じました。
- ・戸村先生がとても優しいお人柄が伝わる講座で安心して受講できました。業務の都合で土曜日は出張(他の研修会)が多く、その中で講座になんとか参加したため日曜日に講座があつてもいいのかな、と思いました(出張地に早めに行き、レンタルスペースなどを借りて受講しようとしたときに 10:00~の所ばかりで、10:15~とかの実施でもいいのかな、とも思いました)。トピック2が課題の提出日が他のトピックと違ったため(シラバスは水曜日提出?)、どちらを信じていいのかわからなかったので提出日が通常と異なる場合はもう少し強めにアナウンスいただけるとありがたい、と思いました。グループ分けで一度も話せないままの人がいると思いますので、グループ分けは皆さんと一度はお話できるように作成していただけたらよかったですなあと思いました。
- ・大変お世話になり、ありがとうございました。「基礎講座」とあつたので、基本事項の復習用にと思っていました、初めて学ぶことも多く、とても充実した内容で勉強になりました。大学マネジメント論について、より深く学びたいと思いました。
- ・講義全体を 4 か月にわたり運営していただき、誠にありがとうございました。土曜の午前中に開講していただいたおかげで、午後の時間も有意義に活用することができました。オンデマンド動画では、コメントを通じて受講生同士の意見を共有でき、動画を見返す際に多様な視点から内容を捉えることができました。また、コメントを参考にすることで、自分にはなかった観点に気づき、学びの深まりを実感しました。オンライン講義では、グループワークやケースメソッドなど、受講者が主体的に取り組める工夫が盛り込まれており、自分自身にも適度な負荷をかけながら学ぶことができました。講義中に他の受講生と意見交換を行う機会も多く、学びをより実践的なものにすることができました。特に 9 月は後期授業の開始時期であり初回講座も重なって最も厳しい時期でしたが、その後は課内の協力もあつて滞りなく受講できました。このような充実した学びの場を提供していただき、本当にありがとうございました。
- ・Google Classroom や Playposit を活用されていて、遠隔地でも問題なく講義を受講することができました。Playposit の仕様にはなりますが、別のタブで検索をしようとすると動画の再生が止まったり、動画ごとの講師からの投げかけが、最後の時間にならないと見えないため、4 章のように別シートで一覧をいただけたら、最初の方に投げかけがあるとそれを考えながら講義を受けることができると思いました。
- ・戸村先生からはオリエンテーションの時から、適宜、「働きながらこの講座で学ぶことは大変だよ」と「覚悟」をもって講座に臨むようにと意識づけいただきましたが、実際にこの4カ月間は学習やその準備、振り返り(まだ十分にできていませんが)など、大変苦労も伴うものでした。しかしながら、戸村先生を始め講師の方々が「いい距離感とタイミングで」併走してくださり、かつ同期のみなさんとともに苦労を共有しながら、どうにか途中棄権せずにゴールできました。これまで自分一人だけでは大学経営に関する体系立てた勉強はやってこなかったこともあり、演習課題に対して、「何を問われているのだろうか?」と毎回悩みながら進めていました。個人的にはこの講座を通して学んだことに対して、「思考を言語化する」訓練とその難しさを改めて体験できたことを今後に活かしたいと思っています。また、極度のあがり症なので演習回の司会や報告の時にはとても緊張してしまいましたが、そういったことも含めてとても良い訓練にありました。まだまだ現場での実践には程遠いですが、講座を通じて、日々の業務への意識は少し変わった気がします。例えば「今のこの業務は

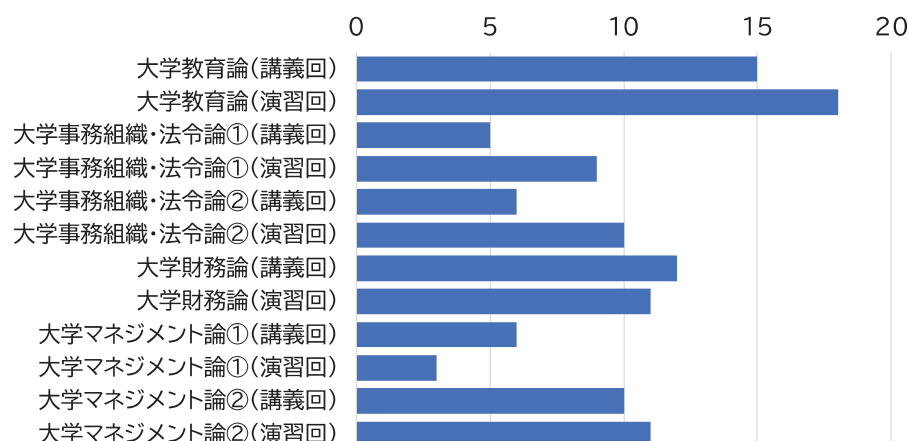
講義や演習を通して学んだ〇〇に当てはめて考えられることができるか？」などのように。また、本講座を通して演習回を重ねるごとに、受講者間の一体感が生まれ、それぞれの背景が異なることも織り込んだ上で、ともに悩みながら学びが深められたことは、個人的には大きなモチベーションになりました。

・履修前に学びたいと考えていた内容を十分に学ぶことができ、大変有意義な経験となりました。また、受講を通じて大学職員としての業務に対する理解と姿勢が深まりました。

科目及びトピック別

2.1 必修科目のうち、あなたにとって印象に残った、満足したものは以下のうちどれですか？

(1人最大5つまで複数回答可)



2.2 2.1 であなたがそのように回答した理由をお書きください。

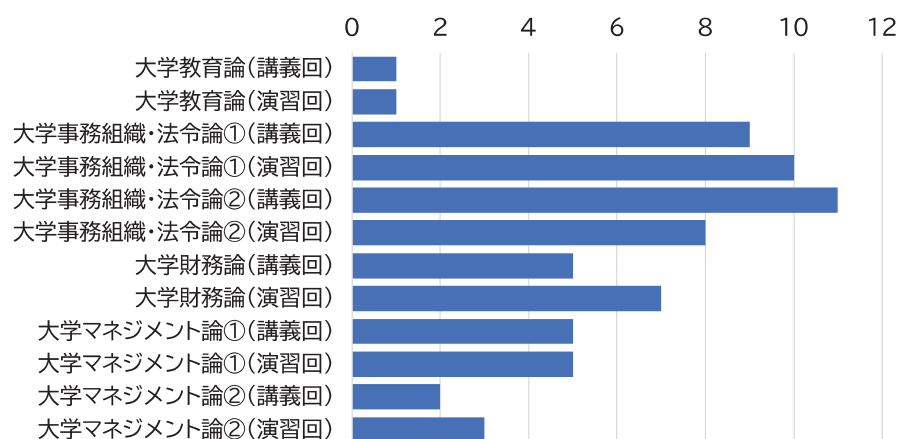
- ・本音での講義・討議が行えたこと。
- ・何が分かっていないのかがイメージできていませんでしたが、実務レベルに落として頂いたことで、その業務の経験がない自分でもイメージできるようになったから。
- ・戸村先生の講義は「THE 大学の講義」という雰囲気があり、ワクワク感があつた。また、視覚的にも、スクリーンを黒板に見立てて授業をしてくれていたのが、モチベーションを維持しやすかつた(受講生にとって嬉しい工夫)。大学経営基礎講座の受講生たちは、実践的な知識とスキルの獲得を望むと同時に、純粋な学びを楽しみたいと感じている人が多いと思う。戸村先生の講義は、そういった受講生たちのハートをガッチリ掴むと思う。
- ・木村先生の講義は、「ずば抜けて優秀な大学職員のマシンガントークを聞く会」という雰囲気だった。「この人に負けないイケてる大学職員になるぞ！！頑張ろう！！」と思わせてくれた。若い大学職員にぜひとも受けてもらいたい講義で、大学職員のイメージが良い意味で変わらと思う。ただ、木村先生のキャラクターが非常に際立っているため、好き嫌いが分かれると思う(相手が誰でもズバツと切り込む感じ)。
- ・演習回において、講義の内容、自信の知識・経験、自大学の現状等の情報を複合して自身の考えを形成し、それを文章化したことで、より印象に残ったと思います。また、設置の趣旨や財務諸表など、今まで携わったことのない(苦手)分野について強制的に課題をやり遂げたことも、自信につながりました。さらにグループワークで他大学の状況等と比較できたことも良かったです。
- ・同じ事例や設問に関して受講生それぞれの意見を持ち寄り形式の演習回が有意義であったと感じる。大学財務論については重要な点に絞って初心者向けの説明をいただいたと感じており、わかりやすかつた。
- ・大学についての概観を得ることができたこと、またケースメソッドで考えを深めることができたことがよかつたです。
- ・大学教育論 演習回:現場で起こりそうかつ答えのない題材であつたので、自分で考えるかつ他の受講者の意見を参考にすると得られる気づきが多い課題であり、1 番最初の演習回として非常に良い回だと感じました。
- ・大学事務組織・法令論② 演習回:学部設置という大学職員業務の総合格闘技の位置づけであり、AC という実務上困る事柄についてどう対応するかまで含めて考える機会を頂いたのが、非常にやりがいを感じました。
- ・大学マネジメント論①・②講義回:実際に職員でご活躍された方がここまで体系的に大学マネジメントについてご教示いただく機会は非常に有益だと感じました。加えて実体験に基づいているため非常に腹落ちもしやすかつたです。また、自分が理事等にレクする機会があれば、本資料を見直してから実施したいと思いました。
- ・大学教育論→大学に関する知識が全くなかつたので、大学の成り立ちや歴史を学び、今の大学組織である理由が理解できました。実際のケースメソッドでは、教務的な課題について、様々な材料を探しながら自分が当事者として具体的に考え方向性を導き出す練習になりました。
- ・大学事務組織論・法令論→新学部設置と学部設置の変更に際する課題がとて難かつたので、色々な資料を何度も読み、時間をかけたので印象に残っています。不明瞭だつた部分は、演習回で他の受講生の方と話し意見を交わすことで理解を深めることができました。
- ・苦手意識があつて知らないままになっている内容があつたことや、純粋に授業内容を興味深いと感じたため。
- ・大学教育論:大学の起源を知ることによって今日の大学を俯瞰して見ることができました。また、演習回の課題の中で空想の大学を事例として

扱っており、自大学を題材とするとバイアスがかかったりするので自身が所属していない空想の大学について考えることでより深い考察が必要でした。

- ・大学事務組織・法令論：自身が昨年より文科省への届出業務を行っていたこともあり、復習として最適な課題でした。今後大学として認可申請を行うことも想定されますので必要な知識をインプットできたと思います。
- ・大学財務論：私立大学と国立大学の財務諸表を用いた課題であり、それぞれの財務諸表をどう読みとくかも大事でしたが、私立大学の財務についての公開ページは学校法人会計が透明性と健全性を基盤とするものであることが見てわかるページでした。法律に基づく学校法人の財務について、そして財務分析の手法についても学ぶことができました。
- ・大学マネジメント論：文科省の政策や、様々なマネジメント手法を知ることができました。自大学の組織と照らし合わせて運用を考えるきっかけとなりました(最大5つまでとのことでしたのでチェックはできていません)。
- ・なかなか書籍などでこの情報量を収集することは難しく、かつ専門家の先生のご意見も同時に聞くことで解釈の参考になったから。
- ・大学という組織に興味があったので、知的好奇心をくすぐられる内容で面白かったです。また、戸村先生が演習回で使われていたホワイトボードが分かりやすくして良いなと思いました。
- ・他大学の方とのディスカッションを通して、多様な意見に触れることができたから。
- ・選択した科目では、自分自身が実際リアルタイムで悩んでいることに直結する内容であったり、全く知らなかった触れたことない部分を教えていただくことが多かったためです。
- ・法令と財務については、もともと興味がありましたが、どのように学ばよいかわからず悶々としていました。体系立てて具体例を提示しながら考える機会をいただき学びが深まりました。また、DX についても関心があり、どのように推進するのかといったヒントを得ることができたため印象に残りました。
- ・まだ自分が経験したことがない業務に関する内容が含まれており、今後参考になった。
- ・他の方の意見をじっくり聞くことができたため。また、普段行っていない業務についてでしたので、参考になりました。
- ・知らないことを学ぶことができた。
- ・①大学教育論・演習回：ケースメソッドという初めての手法で進められたこと、そして初回演習であったことが特に印象に残っています。ケース教材も自身の業務と関連の深い内容だったため、非常に興味深く取り組むことができました。このような緊急事態が発生しないよう、普段の業務においてどのように取り組むべきかを改めて考える機会になりました。
- ・②法令編①：動画や課題を含め、確認すべき資料が多く、その分得られるものが多かった印象です。大学設置業務については、これから関わる可能性が高い分野であり、この講座を通じて触れることができたのは大変有意義でした。事前に準備すべき内容や確認事項を学べたことは、将来の業務に役立つと感じています。
- ・③大学財務論：財務について学んだことで、すべての業務において財務意識が欠かせないことを再認識しました。どの業務にも予算が関わり、それを意識したマネジメントが必要だという点が非常に印象的でした。基礎講座での内容は初歩的なものでしたが、演習回では財務担当の受講者の考え方や見方を知ることができ、大きな学びとなりました。普段の業務において、財務意識を持つ重要性を改めて感じています。
- ・④⑤大学マネジメント②：講義回・演習回ともに深く考えさせられる内容でした。大学の学長が直接講義や演習に参加してくださったことに感謝しています。また、塩田先生の考え方が印象に残っています。生成AIの発展により10年後すら予測が難しい時代において、先を見据えながらスピード感を持って対応する重要性について学びました。普段の業務にも「経営する」という意識を持ち、未来を見据えた取り組みを心がけたいと思います。
- ・戸村先生：講義は今まで勉強したことがなかった大学の歴史や成り立ちを知ることができました。木村先生：ちょうど京都コンソーシアムのSD研修会にも参加させていただき、事務の仕事の研究として客観的なデータ分析を元に勉強することができました。篠田先生：会計は大学時代も少し勉強したのですが、とっつきにくい印象があったので不安でしたが、分かりやすくこの部分だけ分かればよいということに救われました。他の医科大学との比較もやってみたいと思いました。塩田先生：講義・演習ともに自身に直結する内容で、他の受講者が同じような悩みを抱えていると分かったとともに入職者と実際の大学の現状のアンマッチを感じるすることができました。
- ・今回の講座全般的に言えることですが、自分自身が大学で働くこととなって、日々の業務をこなすことが中心で、個人的な研究や分析を行うというより感覚的な部分が多かったため、それぞれのテーマにおいての講義を受けることで感覚的なことを学術的な理解とつなげることができたトピックが多かったです。自分の考えを言葉にするための基盤として、基礎的な知識が伴わなければ言葉が揺らぐことを痛感しました。大学教育論については、大学の歴史や変遷、大学という特殊な職場について、大学で働く人のリテラシーの基本を学ぶ構成と内容が良かったです。「大学あるある」について真剣に(論理立てて)考える訓練は改めて大切だと思いました。大学事務組織・法令論①の講義が個人的な意識の変革に大きく寄与した講義・演習になりました。また大学事務組織・法令論①②の演習回は、自分がまったく扱ったことのない課題に対して難しさや、知っておくべき知識として学びたい葛藤の中で、何度も手を止めながら取り組んだ演習でした。大学財務論については、改めて自大学の予算編成から執行の流れについて、そもそも予算の意義とは何？から学ぶことができたので、自大学は実際どうなっているのか？と知識を業務に振り替えるきっかけになった。
- ・大学教育論や大学マネジメント論は講義が体系的にまとまっていたので、理解しやすかった。また、インプットと演習回のつながりが分かりやすかった。
- ・演習回で各大学の状況や考え方を共有することで改めて自大学での取り組み等を考え直すことができた。財務論については個人的に知識が不足していたので講義回で全体を説明していただき理解が深まった。

2.3 必修科目のうち、あなたにとって理解が難しかったものは以下のうちどれですか？

(1人最大5つまで複数回答可)



2.4 2.3 であなたがそのように回答した理由をお書きください。

- ・業務で担当したことの無い内容であったため、事前課題を解くことが非常に難しかった。ただ、設置基準や法令についての苦手意識は無くなった気がする。
- ・単純に経験がなくどのように取り組めば良いか分からなかったこと、また、資料が多すぎて道筋が見えなかったから。
- ・強いて言うなら大学財務論の理解が難しかった。用語の意味から説明をしてもらいたいと感じたことが何度かあった。
- ・「組織」という大きな題材であるため仕方のない部分も有ると思いますが、講義内容が抽象的で、講義動画を見終えても重要な論点がよく分からず、「腹落ち」できずに終わってしまいました。スライドの内容の詳細な説明がなされずに進んでいくことがあったため、スライドのどこが重要なかが理解できなかった部分もありました。抽象的な題材になるからこそ、もう少しかみ砕いた説明や、事例をあわせた説明をいただけると、理解の助けとなると思います。
- ・当日追加で出された討議テーマについて、理解が追いつかないままグループワークに臨むことになってしまい、もったいなかった。
- ・理解が難しい、というものは特にありませんでした。消化不良にはなりました。いかにも記載しますが、講師の立ち位置への違和感があったため、自分としては受け入れられない部分があったということです。
- ・大学事務組織・法令論→大学設置基準に関する書類は量も多く、資料の探し方や整合性の確認方法が最初全く分からなかったからです。新規設置も変更申請も全学的な内容を把握することが必要で、ものすごく難易度が高いと感じました。
- ・大学財務論→国立、私立と用語が異なるところ、財務諸表の並びが違うところで、理解が難しかったです。数字や割合が上下する変化は理解できましたが、その変化だけでは良し悪しは断定できず、他の資料から判断が必要であり日常から様々な資料を読み取る練習が必要だと思ったからです。
- ・業務上、学生と全く関わりがないこともあり、手探り状態だったからかと考えています。勉強になりました。
- ・設置基準の奥深さを痛感しました。
- ・内容の理解が難しかったというよりは、若干この講義の先の大学業務での活用のイメージ・講義の意図がわかりづかった。演習回を通じて、こういう風に役に立つのだなと理解した。
- ・法令や財務は苦手意識のある分野でしたが、それぞれの背景知識も含めて丁寧に教えていただき、以前よりも理解が深まったと思います。
- ・財務やDXに関しては知識不足であったため。
- ・内容が難しかったというよりは、説明の中で分からない部分が何度かあったからです。講義回では、スライドが沢山用意してあるにも関わらず、全てを説明されずかなり早いスピードで次から次へと進むため、「スライド内容のこの部分をもう少し詳しく聞きたい」と思っても説明が省略されている点が多々ありました。500文字以上説明のあるスライドが10秒で次に進んでしまうこともありました。私の理解能力の低さが原因ですが、資料を後で見返しても、あまり内容が思い出せない部分があり、何度も動画を見返したり、一時停止やスローにしたりと、少し理解に時間がかかったことが理由です。
- ・法令は奥が深く、大学運営に携わるには過去の法令の成り立ちから学ぶ必要があると感じました。わかりやすい内容でしたが、つながりを理解しながら大学運営を考えることに難しさを感じ、選択しました。
- ・研究内容等も踏まえた内容で、興味深かったが、講義内容が頭に入って来にくかった。
- ・データ分析は素晴らしいと思うが、実際の業務には使わない。
- ・すべてにおいて言えることは、講義を通じて初めて真剣に考える機会を得たということです。理解しようと努力しましたが、どうしても正解を求めてしまい、演習課題に多くの時間を要していたように思います。普段の業務では耳に入る程度だった法令、財務、DX、経営といったテーマに対し、実際にはほとんど目を向けずに大学事務に携わってきたのだと気づかされました。これら5つの項目にはこれまでほとんど関わっていなかったため、初めて取り組む際にはある種のアレルギー反応のようなものを起こしていたように感じます。正直なところ、現在も苦手意識があることに変わりはありません。特に理解が難しい分野については、人的資源が豊富な大学であれば内部での人材育成が可能かもしれませんが、小規模な大学では外部から専門人材を採用することが最も現実的で効率的な方法だと思いま

した。しかし、どの大学も人材確保が困難な状況にあると感じました。そのような状況でも、意識し続けることが重要だと感じています。自らの課題を把握し、小さな一歩でも進み続けることで、大学運営における貢献度を高めていきたいと考えています。この講義で得た学びを、業務に少しずつでも活かしていきたいです。

- ・木村先生・長山先生・篠田先生：これは私側の問題ですが、単科大学・予算業務がほとんどないという大学の環境のため、私の中で落とし込むことが難しかったという理由です。予算に関する資料がないため、他の部署に聞いたりしたのですが、私がこの講義を受講していることは大学に共有していなかったため疑問視をされました。どの先生の演習についてもグループディスカッションを進める中で自分の答えをなんとなく発見することができました。
- ・いずれも、個人的な知識・勉強不足であったがため、理解が難しかったという視点になります。法令論については、自身の苦手意識もあったので動画だけでは頭の整理が追いつかず、スライドの資料を見返したりすることについて必ずしも十分な時間が取れなかった。それでも、自分の業務の中で関連する法令を検索するなどの意識が身に付いた。大学財務論については、特に予算編成について本学の実態が講義で学んだ知識に即しているのか調べることができなかったため、理論を実践に展開するには不十分であったことは残念だったが、財務担当と雑談レベルではあるが、予算の定義について話す機会があり、担当レベルでもその認識が曖昧な部分があることに本講義で学んだことを学内に展開する必要性を感じた。大学マネジメント論①、②については個人的に興味があるテーマだったが、業務知識レベルとして覚えるべきことが多く、自大学に当てはめた際に変革できるのかイメージがつかず、講義期間中には十分に消化しきれなかった。今年度はタイミングよく、「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）」について考えるきっかけとなり、自身に足りていないものを補う必要性を痛感した。スモールステップであったとしても改革の種をまきたいと思いました。
- ・インプットの範囲が広く、また抽象的な表現が多かったため、理解が難しく感じました。しかし、到達目標や参考文献等が明記されており、受講後に時間をかけて学習できるよう配慮されている点はありがたく思います。
- ・参照しなければいけない法令が多岐にわたり、それらのすべてを講義と演習で網羅することはできなかった。完全に理解するには時間がかかることは承知しているが短期間ではどう解釈していいか判断に迷う部分があった。

2.5 必修科目で追加したほうが良いと思われるトピックがありましたら、そのトピック名と理由をお書きください。

- ・教職協働の話は今後必須にしても良いかと思いました。
- ・大学の国際化に関する科目を希望する。理由としては単純で、多くの大学が「国際化」を推し進めているから。
- ・強いて挙げるならば、教務系知識について。大学職員の3大部署といえば総務・財務・教務ですが、この講座では教務部分をカバーできていないのかなと思いました。自身も教務分野に疎く、受講生の中でもそのような方がいたため、教務系の知識を学べても良いのかなと思いました。そもそも「大学経営基礎講座」という名前なので、教学を入れていないのかも知れませんが、大学間で違いがありすぎて科目にしていけない等のご事情があるかもしれませんが…参考まで。
- ・大学の国際化という観点があってもよいかなと思いました。中教審答申でも留学生の獲得という方向性もある、と示されていますし、大学ランキングとの付き合い方(ランキングを肯定するものではありませんし、海外系だけでなく国内のものとも含め)なども、共有できるといえます。地域における大学、という視点ともうまく組み合わせられるとよいのかもしれません。
- ・「教務事務の基礎(教育プログラム・カリキュラム開発とか?)」、「研究支援の基礎(外部資金の管理サイクル、地域と大学連携?)」。
- ・社会連携や広報、外部資金など、大学と社会(外)とのつながりに関するトピックがあってもよいように思います。
- ・補助金獲得→経営において私立大学はやはり補助金に頼っているところがあると思いますので補助金について(項目の変遷、今後項目に追加されるようなものの先を読む視点)も掘り下げて扱ってもらえるといいと思ったから。
- ・大学マネジメント論関係を増やしてほしいです。
- ・もっと知りたかったという内容ですが、各大学で教職共同の具体的な事例があれば知りたかったと思いました。もちろん大学で状況が異なることは分かるのですが、具体的に事務が事務作業をする人から脱するための取り組みを知りたかったです。
- ・トピックスではないかもしれませんが、受講生が自身の所属組織にて取り組んでいることなどを紹介する機会があっても良いかなと思いました。もちろん話題にできる内容に制限があるので難しいのですが、受講生同士の雰囲気や講座の雰囲気に慣れている、大学マネジメント論の講義期間中などに、「各自の小さな改革など」共有できる機会があれば、受講生の思考の幅が広がるきっかけになるかもしれません(演習回の時に、自身の経験に基づいた事例など話すこともあったのですが、そればかりに時間を取られてしまったのではと反省しています)。人事制度については、自大学でも深堀していかなければならないテーマだと認識しており、人事制度にフォーカスした演習回というものにも取り組んでみたいと思いました。
- ・DX化・ICT化、特にAI関連。

2.6 必修科目について、どのようなことでも結構ですので、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

- ・どれが欠けてもダメだと思います。もう少し、必須科目を増やして機関や受講料をアップしても良いかと思いました。
- ・講義時間(レクチャーとディスカッション)を延ばして欲しい。毎回本当にあっという間に終わってしまう。
- ・講義科目について、10分～15分の動画は隙間時間に取り組みやすかったので、継続していただければ嬉しいです。
- ・大学財務論、マネジメント論については、申し訳ありませんが演習は若干消化不良感がありました。特に財務論について、貴重なグループワークの時間であるにも関わらず、非常に中途半端な整理されていない、問を最後に投げられたことが残念でした。講義内において、財務論における予算のとりえ方や説明の仕方、また大学マネジメント論における大学行政・政策という言葉の使い方についてとても違和感がありましたが、自身が純粋な大学職員ではないため、という背景が大きく影響しているとも思います。一方で、大学が閉じられている、とも感じてしまった部分もあり、外から見た大学、という視点も必要なのではないか、とも思いました。
- ・大学財務論の理解度が、自分の中では思ったほどではなかった感じます(動画だけでは基礎知識の理解が及ばず、他でも情報を探して

いたのですが・・・)。財務諸表の見方のパターンが多くあると認識しており、慣れもあるかと思いますがパターンがつかめていないのかなと思います。例えば、何校かの財務諸表で、先生が大学の財務諸表を見られている視点を、「純資産構成比率」だけではなく確認箇所を順番に説明していただくと、どういう順番で見ていくのが理解できるのではと思いました。

- ・Playposit が少々重く、またスマホからはコメントし辛い仕様になっていたのが少し残念でした。個人的には Microsoft Stream の方が好みます。
- ・財務知識のパートは複数回開催していただきたいくらいでした。苦手意識をもつ人が多いことと、その数字から読み解けることや取りうる対策についてはもっと勉強したいと感じました。
- ・オンデマンド授業(講義回)と、同時双方向授業(演習回)のバランスがとても良かったと思います。自分のペースで受講を進められるうえ、適度に締切があることによりダラけることなく最後までやり遂げることができました。
- ・このままで良いと考える。
- ・課題や演習など正直かなり難しいと思う内容もあり、業務をしながら、かつ家事や育児をしながらは大変でしたが、その分刺激や気づきも多く、とても満足しています。
- ・講義回について、何かしら理解度をチェックするような確認小テストみたいなものがあると講義の中でさらにどこが重要か、がわかると思います。
- ・大学マネジメント論関係を増やしてほしいです。
- ・普段の業務もある中、演習回や講義動画等の作成、コメントの返信等にご対応いただきありがとうございました。1 点だけ。4 か月間で学ばせていただきありがとうございました。動画のコメントについて、最初の動画は全部に回答せずともコメントをすることで考えながら動画を見ることができました。後半からはそうした縛りがなくなり、少し考えなくなってしまった自分がいました。書けば良かったのですが、個人の意識の問題ですけど。負担感の面をふくめてのご配慮だったかと思いますが、必要なかったのかと思いました。コメントも学ぶ中で非常に参考になっていましたし、演習回でのグループワークの際に、どのような受講者なのかの指標にもなりましたので、個人的には有効に活用していました。
- ・非常に勉強になりました。講義はもちろん知識を得るという意味で良かったのですが、演習回で色々な受講者とのグループにしていたので、受講者によって得意な内容であれば補足をしていただいたり、自大学でやっていることを教えていただいたりと演習回で学ぶことも多かったです。
- ・なかなか難しいのですが、演習課題について、1人であだこうだと悩むことが多く、演習回で初めて、「課題の意図を十分に捉えきれていなかった」と思うことがありました(そこに気が付くことも学びであり、1人でやり切ることも必要なので、さじ加減が難しいのですが)。その流れ自体は変えなくてもいいのですが、演習回の後半によろしく、各自で事前にスプレッドシートに入力するところに至ったので(演習回の最初の方は、勝手にスプレッドシートに入力することができることや、やってい事の判断が付きにくかった)、スプレッドシートの共有について、「事前に入力して共有することも過去の受講生はやっていたよ」と次年度以降、受講生に紹介いただけるとよいかなと思いました。
- ・演習回のグループワークでの司会進行とまとめの発表は、大変貴重な経験となりました。普段はこのような機会が少ないため、とても良い実践的な訓練になりました。

2.7 自由科目(大学経営人材開発論)について ※集計上 100%にならない場合もある

	とても良かった	良かった	あまり良くなかった	全く良くなかった	参加していない
第1回	29%	50%	8%	4%	8%
第2回	38%	42%	8%	0%	13%
第3回	33%	33%	4%	0%	29%
第4回	38%	42%	8%	0%	13%
第5回	29%	38%	4%	0%	29%
第6回	38%	33%	4%	0%	25%
第7回	58%	21%	0%	0%	21%

2.8 自由科目(大学経営人材開発論)について、どのようなことでも結構ですので、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

- ・大学職員としての今後のキャリアパスを考える一助になった。今回の自由科目の講師の皆さまはとても素晴らしい経歴を持っており、大学職員としてはエリートだなと感じた。ただ、私のような一般的な職員のお話も聞けるとよかった。
- ・刺激になった。自由科目は次回以降も継続すべきだと思う。
- ・様々な経験をお持ちの方々のお話を聞くことができ、楽しかったです。グループワークをしていて、どここの大学でも同じような悩みが有りそうだとすることに気づくことができました。
- ・色々な方のお話を聞く中で、知らなかった制度や考え方について知ることができよかった。
- ・大学職員は大学に関心がある時点で、学びに対して貪欲な人もいるのだな、と思いました。自分自身は仕事のためと思わないと学ぼうという感じにはならないので。講師の方々や本講座の参加者の意欲には感心させられました。個人的には教員の方々が、教員になってからどのように学びをしているのか、ということも聞いてみたいと思いました(例えば学内行政(という言葉は好きではありませんが)について、どのように捉えて対応を学んでいるのかとか)。

- ・このような他大学の職員の方の職歴を振り返ってお話を頂く講演は、年配のベテラン職員の方が多い中、今回の自由科目は30代や40代(推定含む)等比較的中堅層の方のお話をお聞きできる本当に貴重な機会でした。必修科目と同じくらいこの自由科目は自分にとって勉強になったし、毎週楽しみで仕方なかったです。
- ・全ての自由科目において、受講後は「自分は何を自己学習しようか?」「これから何らかの勉強を継続したい」というポジティブな気持ちになれる内容ばかりで、受講するたびに、何か学習に関する意欲が高まっていることを実感していました。こんなにたくさんの先生方から、キャリアやご経験の内容を直接お聞きできる機会は滅多にないと思うので、今後の自分自身の在り方を考える参考になりました。
- ・アンケート項目に「ふつう」「どちらでもない」を追加していただきたいです。上記で「あまり良くなかった」を回答した回は、実際には「どちらでもない」に近い感想です(よかったと感じた部分と、よくなかったと感じた部分があって相殺された形です)。
- ・今回受講した大学経営基礎講座の次のステップを受講前からイメージはしていたもののぼんやりとしかイメージできなかったのですが、自由科目を受講し、過去に履修証明プログラムを受講した後どのような学びを継続されているかを知ることができました。自分自身の今後に大いに参考になりました。
- ・大学経営の最前線で活躍されている方々より、リアルなティップスを教えていただき、大変勉強になりました。そのような機会はなかなかないので、とてもありがたいです。
- ・様々な経験や学びをしておられる講師の方々の話を聞くことは非常に興味深く、とても参考になりました。この時間に関しては、せっかくの機会なので、グループワークの時間は取らず(もしくは最小限)にして、講師の方との質疑応答の時間をもう少し取れればいいと思いました。
- ・グループワークをする場合は事前に教えてほしかったです。
- ・実際の職員のお話を聞くことができ、参考になった。
- ・貴重なお時間を使っただき、ありがとうございました。働き方や学び方、それぞれのスタイルを維持しながら学び続けられている講師陣の講演は考えさせられるものがあると同時に、自大学ではどうなんだろう、そうした考え方や学び方ができるのだろうかと思いました。真似をする必要はありませんが、主体的に動かれていることで今の立ち位置を確立されているのだと思いましたので、行動し続けた先の姿だと思いました。また周囲の協力は必要不可欠だと思いました。個別に講師の方に連絡を取らせていただくことができるなど、科目後もご対応いただけましたので本当に助かりました。今回は大学関係者のお話でしたが、例えば大学外部の方から見た、大学職員・大学業務についてお伺いしたりできれば、そもそもの業務に対する考え方、取り組み方も変わると思いました。
- ・自由科目にて、他の大学で頑張っている職員の方の話を聞き、自分も最も頑張ろうと思うことができました。来年度は是非、毎回別の回の講師の方が来てくださっていたので、一緒にディスカッションできても面白いなと思いました。
- ・自由科目の講師の方々として、様々な背景の方々からお話を聞く機会となり刺激を受けました。自分のキャリアを考えるうえでモデルとなる存在が学内にいないため、講師の方々の人生の楽しみ方が魅力的に映りました。また、欠席者に対してのフォローアップも考慮くださってありがたかったです。
- ・登壇された講師の方々のキャリアについてお話を伺うことができ、大変参考になりました。皆様が素晴らしいキャリアを積まれており、その道を歩みたい気持ちは強くありますが、地方の小規模私立大学で活躍されている方からもお話を伺う機会があれば良かったと思います。

今後の学びについて

3.1 講座受講のインパクト ※集計上100%にならない場合もある

	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない
大学の現場で活用できる力を身に付けることができた	46%	50%	0%	4%
受講により、自身のキャリアにおける課題が明らかになった	38%	46%	17%	0%
受講により、今後の学びに関する自分なりの方向性が明らかになった	33%	46%	21%	0%
受講により、今後も自分なりに学びを継続したい気持ちになった	75%	25%	0%	0%
受講により、大学院進学を検討したい気持ちになった	25%	38%	33%	4%

3.2 3.1.であなたがそのように回答した理由をお書きください。

- ・元々、大学院に進学を検討していましたが、教育職のみならず事務職としての進学も検討するきっかけになった。
- ・講師および受講生のモチベーションが高いため、否が応でも前向きになれる。
- ・大学院進学については、そこで取り組みたい課題が特に重要だと思っていますので、もう少し広く学んで取り組むべきと感じた課題を発見したときに、大学院に行ける選択肢(お金・時間、etc)があればいいと思います。
- ・受講を通して学びに対するモチベーションが上がった。大学院進学については受講前から検討していたが、色々な学びの仕方を知ることでもできたので、逆に慌てて目指さなくてもよいのかなと思うようになった。
- ・必ずしもすぐに実践に活用できるわけではないのですが、何かの時にそういえばと思い出せるかな、と考えています。

- ・本講座はあくまで「基礎」という位置づけであることから、受講を機に更に学びのモチベーションをアップさせ、具体的にどう学んでいくかを考えさせて頂く仕組みがあった講座だと感じています。ただ、本講座を受講したことで、自身のキャリアの課題(不得意分野と定義する)が明らかになるのかという所は少し疑問を持ちました。
- ・多角的に考える力を身に付けることができました。今後の学びについては、色々な道がある事を新たに知り、自分のキャリア形成に学習をどう取り入れていくかを考えるきっかけになりました。受講生の方々の考えや学ぶ意欲を拝見し多大な刺激を受けるとともに、仲間意識を感じながら自分もできることを頑張ろうと奮い立たせられました。
- ・今回の講座受講がきっかけの一つとなり、大学職員としてのキャリア形成に大学院進学が必須と位置付けました。自由科目の話題提供者の皆さんはそれぞれ自分自身の大学職員観を持っておられ、共通して大学院進学をされています。その大学院での学びはきっと自分自身の大学職員観を醸成してくれるのだと感じました。
- ・これまで漠然と理解していたことの背景や仕組みをより正確に知ることができました。大学の方々と会話するにあたって参考になりました。
- ・エフォートが評価に結び付くことで、よりモチベーションが高まるのではないかと思います。
- ・学びに関する方向性は見えてきたが、育児等もあり自分のペースでしか学びを継続できないと感じたから。
- ・今回の講座を受講する前は、高等教育の課題や大学職員として必要なことを漠然とイメージしているだけでしたが、講師の先生や他の受講生の方々の話を聞いてかなり具体的なイメージに変えることができました。また、情報交換をする中で自分自身に足りない部分を痛感し、今後の学びの意欲が増しました。
- ・幅広い範囲を扱ったので、色々学びたいという気持ちになった。
- ・高等教育に関する研修会をつまみ食いするのではなくまとまった学修(大学院)が必要だと思ったから。
- ・講座を通じて、すぐに業務に活用できる内容もありましたが、多くの場合、受講後に個々人が意識を持ちながら業務に取り組まなければ意味がないと感じました。「大学の現場で活用できる力を身につけることができた」：財務やマネジメントについて、意識することで普段の業務をより深く考えるようになりました。たとえば、「どうすればコストを削減できるのか」「大学や学生、教職員にとって有益な情報は何か」を意識し、アンテナを張る習慣が身についたと思います。すぐに目に見える形で活用できているわけではありませんが、確実に業務への応用につながっていると感じています。「受講により、自身のキャリアにおける課題が明らかになった」：キャリアについては普段から考えています。大学で働き続けるべきか、転職や独立を目指すべきかといった選択肢を常に模索しています。そのため、受講によって新たに課題が明らかになったというよりも、既存の課題を改めて確認する機会となったように思います。「受講により、今後の学びに関する自分なりの方向性が明らかになった」：得意分野だけでなく、苦手分野や興味の薄い分野を学ぶことで、新たな発見があると感じました。また、対話の際に必要な知識を持っていることで、交渉や提案が通りやすくなると思います。そのため、より幅広く学びを深めたいと考えるようになりました。さらに、得意な分野を持つ他者(2期生など)に相談する重要性も実感しました。「受講により、今後も自分なりに学びを継続したい気持ちになった」：現在の業務に必要な学びは継続して行っています。講座を受講したことで、この姿勢を今後も維持していきたいという思いが強まりました。「受講により、大学院進学を検討したい気持ちになった」：大学院進学については、費用面や総合的な条件を考えると現時点で検討する予定はありません。ただ、少し興味が湧いたのも事実です。
- ・元々大学院の進学を考える中でまずは自分の大学が他の大学と異なる部分を知りたいと考え、また自分には大学の基礎知識が足りないと考えていたので、履修証明プログラムで基礎知識を固めたいと思い、このプログラムを履修しました。自由科目で自分で調べていた中にはなかった大学院を修了された方もいらっしゃり、より具体的な検討を進めることができました。またタイムリーに大学のカリキュラムを含めた企画運用をする部署に異動となりました。そこで今回の学びで勉強したことを生かして、根拠のある提案ができるようにしたいと思います。
- ・大学経営基礎講座を通して、自分自身の中で大学業務を進める上での課題やそれをどのように捉えるかということについて新しいチャンネルを開くきっかけになった。ただし、まだこの学びを実践につなげるには、何度も試行錯誤が必要だと考えています。本講義のコンセプトである、専門的知識の土台の上に技術、さらにそれを経営力に押し上げるためには、自分自身の能力としてそれぞれの要素が十分ではないですし、自分の中での軸となるものをはっきりとさせるためにも、ここからの学びと実践の継続次第と感じているところです。正直なところ、もっと早く大学経営の勉強を始めておけばよかったと痛感しました。受講期間中に、各講座で学んだことなどを視点に、業務に取り組むときに意識づけすることが少しずつできたので、講座の受ける前後で自分自身の行動に変化があった。
- ・この講座は大学を取り巻く環境について理解を深める貴重な機会となりました。特に、他大学で異なる業務を担当している受講生との意見交換は非常に有意義でした。そこで得られた知見は今後の業務に大いに活かせると考えています。
- ・今後も学び続けたい、学び続けなければいけない、学ぶことを学内に広めたいと思える講座だった。

3.3 今後の学びに関して、あなたご自身はどのような学びを行っていきたいと思われますか。どのようなことでも結構ですので、お書きください。

- ・一般企業では人事としてのキャリアがあり、それを活かした知識を身に付けたい。また、経理・会計についても業務遂行能力だけではなく、法令や知識についても学ぶ必要があると感じた。
- ・博士課程に進学し、scholar-practitionerとして活躍できる大学職員を目指したい。
- ・今回の履修証明プログラムのように、分からない・苦手な分野で、強制的に学習できることが自分にとって良かったです。今後は、自身の興味のある分野(大学マネジメントや人材育成)について関連の書籍・セミナー等で学習しつつ、分からない・苦手な分野(Excel等のMSの機能の知識、統計など)を放送大学、資格試験等の強制力のある手法で学習していきたいと思いました。
- ・大学行政管理学会に所属しているためそちらでの活動を通して学びを得つつ、書籍等を使った個人的な学習も続けて行きたい。その他、外部の制度についても積極的に活用していきたいが、特に大学経営人材開発論の中で話の出ていた JSPS の国際学術交流研修についてとても関心を持ったので、参加を考えてみたい。

- ・業務に必要な知識を業務を通じて学んでいくことになるかと思います。
- ・インプットばかりでなく、アウトプットをしていきたいと思います(そういう場が欲しい……)。
- ・大学院には進学したいと思うものの、院は勉強だけではなく研究が必須であることや、時間を捻出できるかということを踏まえて、中々一歩踏み出せないというのが正直な所ではあります。そのため、本講座のように履修証明プログラム等を中心に受講して、学び続けていくのだと思います。
- ・直近は、自身が所属する業務分野が急速に変化しているため、その専門知識習得に関する民間の技術系講座(長期)を受講する予定です。ただ、高等教育について考える時間も継続したいので、空き時間には大学が提供する E-Learning の受講や短期間の学外研修や講座に参加したいと考えています。ただ、大学院での学びについては職場、家庭の理解が不可欠であり、自分自身の置かれている立場などから大学院進学が重荷になってしまうのではないかと感じています。また、大学院進学を行うにあたって、どの分野で進学するのがまだ決まっていません。
- ・常に法令や答申の内容を把握しつつ、興味のある研修会に参加し、他大学の方々との接点を持つ学びをしたいと考えている。
- ・現時点で、自分自身の今後のキャリアについて「どうなりたいのか」「自分は何か得意で何が向いているのか」まだよく分かっておらず、仕事と大学が無くなってしまわないために、目の前の業務を必死にこなしている状況です。引き続き様々なテーマの研修に参加し、大学業務のことをよく知り、自分の核となる部分を探したいと思います。その前提に最低限の学びとして、国の政策に対してアンテナを高く持ち、中教審の答申資料などは細かくチェックしようと思いました。
- ・現実的にはお金がないため、大学院は難しいですし、今後の大学淘汰時代を考えると別の武器となるようなスキルを得られるような学びも必要だと思います。
- ・大学院進学など。
- ・受講者同士のつながり、1 期生、2 期生含めて 57 名いますので、情報交換をしながら学びを進めていければと考えております。まだ外部の研修にコロナ以降、あまり参加できていませんでしたので、少しずつ参加を増やしたいと思います。
- ・1. 医学教育に特化した事務のプロフェッショナルになれるよう学びを進めていきたいと考えています。医学教育は大学教育とも少し異なっており、文科省のみでなく、モデルコアカリキュラムや医師国家試験出題基準といった厚労省の動きにも注視する必要があります。筑波大学の履修証明プログラムは医学教育のカリキュラムもあるため受講を考えています。2. 生成 AI による試験問題の作成を考えているのですが、それが実現できれば教員の問題作成の負担を軽減することができます。こういった内容を学会で報告したいという思いがあります。実際どうすれば報告できるのかまだ分かっていないのでまた先生方にお伺いしながら進めたいと思います。
- ・本講座を受講できたことは大きな縁だと思っています。講師の先生方や同期(受講生)の方々と引き続きオンラインや対面等で学びを継続できる機会が設けられたらありがたいです。自分自身は、今回の学びを通して、自学のスタッフに対して還元したいと考えています(そのために、もう一度初めから復習しないとダメです)。とはいえ、1人で全てではできないので、頑張り過ぎず、でも歩みを止めないように総合的な力(マンパワー)を育てたいです。
- ・大学院進学までの本格的な学習は難しいかもしれませんが、この学びを継続し、大学経営に貢献できる人材として成長していきたいです。
- ・何か専門的な学びよりも本講座の構成のように大学職員として求められるスキルを幅広く学びたいと思う。また、自身の学びを少しでも学内に発信することに取り組みたいと思う。

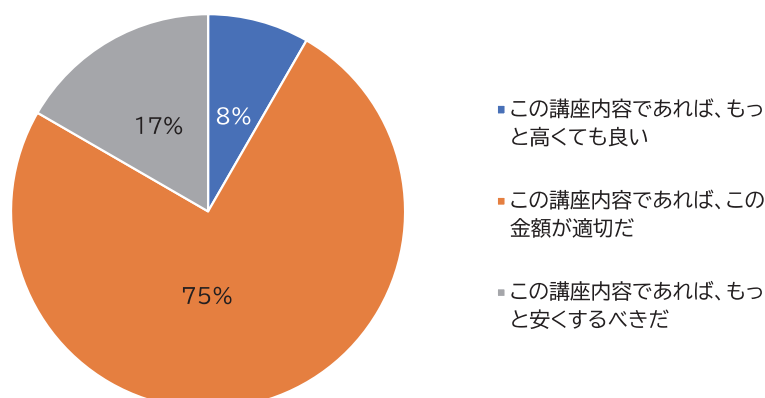
3.4 今後の学びに関して、今回の大学経営基礎講座を前提とした大学経営応用講座を新たに開講するとした場合、あなたは参加されたいと思われますか。内容や実施形態も含めて、自由にご意見をお寄せいただけると幸いです。

- ・是非参加したい。今回は基礎講座であったが、本学の事務職員スキルからすれば、非常にレベルの高い内容であった。このような基礎と応用を体系的に学べる講座は必要だと感じる。実施形態は参加の容易さを考え、オンラインで開催。数回は対面での開催を希望する。期間については、1年程度として、論文までとは言わないが、自大学の課題を取り上げ、解決まで行う。もちろん、解決はできるものとはできないものがあるが、それまでのステップが重要であるとする。
- ・参加したいと思いますが、動画に関して講師が 2 名いた場合、視聴の本数が多いのもう少し減らして頂けると取り組みやすいと思います。
- ・ぜひ参加したい。完全非同期型の講座にも需要があると思う。
- ・是非参加したいと思いますが、今回の講座を受けていても他の受講生の知識量に圧倒される部分がありましたので、講座を受けるに相応しい知識がつけば受講したいです。実施形態は今回のものと同様、オンライン&オンデマンドであればありがたいです。内容については、管理職向けの内容(チームマネジメント、人材育成、プロジェクトマネジメント、リスク管理)に関する講義があっても良いのかも知れません。
- ・ぜひ受講したい。基礎講座と同様にオンライン開講だと参加しやすいのでありがたいと思う。
- ・今回の講座と同じような形式(週末開催、オンライン等)であれば参加してみたいと思います。
- ・是非とも参加したい。事例紹介とその事例からの考察といったカリキュラムは入れてほしい。
- ・参加したいです。実施形態は、今回のように全てオンラインでお願いしたい。対面でのコミュニケーションも重要であることは理解しているものの、対面ありにすると受講者が限られるため、天秤にかけた結果、参加が容易であることに重きを置いて頂けると幸いです。
- ・大学経営応用講座を開講する場合は、参加したいと思います。今と同様の形態が参加しやすいです。
- ・内容や実施形態によっては参加させていただきたいです。オンライン受講可で、時世と興味関心のある分野であればと考えています。また、受講料による部分もあります。仮に市販の書籍で学習できる域を出なければ、タイムパフォーマンス次第という考えです。
- ・参加したいと思う。筑波大学の大学マネジメント人材養成とうまくすみ分けていただけるといいと思います。予算のことや運営のことを無視してお話ししますが、ミネルバ大学のように全国各地を講師陣が転々とし、受講者は近隣地域での開催のみ現地参加とするやり

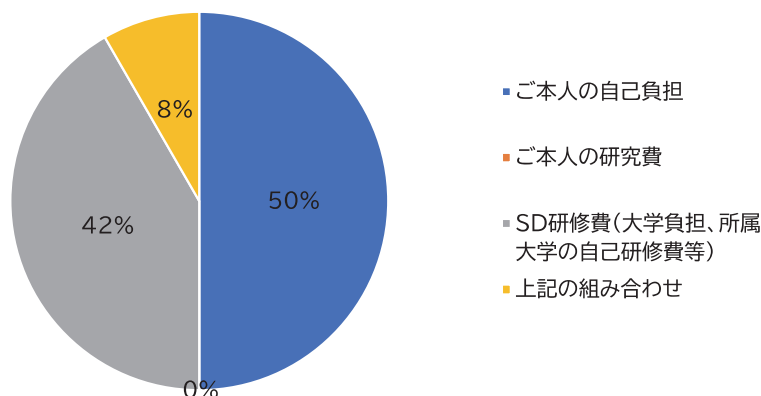
- 方もあると思います（やはり一度も対面が無いのは悲しい…。せめて同地域の方だけでも対面で…。）。
- ・是非参加したいです。期間や時間としてはとても受講しやすかったので、これをもう1ターム別途選択できるというのは受講にあたってのハードルが下がります。また、基礎講座をベースに更に深い知識を習得できるのはありがたいです。
 - ・ぜひ参加したいです。将来は管理職に就きたいと考えているので、大学におけるチームマネジメントやプロジェクトマネジメントに関する内容を勉強できたら嬉しいです。
 - ・是非、参加したい。基礎講座を前提とした管理職向けの講座があると良いと感じる。
 - ・参加したいと思いますが、応用編について行けるか少し不安な部分もあります。もし参加の機会があるようであれば、もう少し実務経験や学びを経て参加させていただければと思います。実施形態は今回のようなオンライン形式を主とし、一部対面でも参加できればいいと思いました。
 - ・参加したいと思います。高等教育を取り巻く環境は変化し続ける一方で、大学特有の変化を拒む風潮により変革を起こしづらいという特殊な機関であると感じます。情報を常にアップデートし続けることと、内部だけでなく外部に仲間を持つことが、変革の起爆剤になりうると思っていますので、そのような機会がありますと大変助かります。
 - ・参加したい。東北での参加は難しいので、オンラインだと参加しやすい。もしくは対面であれば短期集中(3～5 日間)開催もありだと思った。
 - ・参加したいと思います。可能であれば対面実施を希望します。月1回であれば何とか参加できると思いますし、対面でないと人間関係の構築はやはり難しいと考えるからです。
 - ・参加したいです。
 - ・実施形態は今回と同じようなオンライン形式で実施し、最終講義は現地で実施するのもいいと思います。個人的な負担は増えますが、対面で得られる学びも多いと思います。応用になると半年～1 年間は必要だと思いますし、内容も今回の内容にプラスして学生・留学生指導なども追加すればと思います。経営ですと入学後の学生指導は学納金に関わることから必須であり、退学によって学納金が減ることは財務上避けてたいポイントだと思います。参加したいと思いつつ、その時の業務状況などを総合的に判断し決めたいと思います。研修費用が今回とあまり変わらず、大学が負担してくれるなど条件が整えばといったところです。
 - ・是非、参加したいと思います。内容としては大学変革リーダー育成プログラムのような形がいいなと思います。自身の大学の課題を探究するような内容で最後に自身の論文をまとめられるとこの次のステップに繋がると感じました。難しいとは思いますが、大学と同様に各講師の講義を受け、自分のやりたいこととマッチングさせ、ゼミのように講師の元に入り、最後に発表をするというを基本オンラインでできれば、地方在住者としても参加がしやすいように思います。
 - ・オンラインの講座の受講について、自分が苦手としている部分についても今回の講座を通して見つめることができたので、今回同様の形式であれば、受講に興味はあります。ただ、前提として基礎講座を自分の中にしっかりと落とし込んだ上でなければ難しいと考えています。また、応用講座の内容がどのようなものなのか書面だけでなくデモ講義等で事前に確認できるとありがたいです。また、学びの継続のために、大学経営実践講座というような、実務により絡めた講座があると大変興味があります。
 - ・今回学んだトピックが個別の応用講義として開講されるのであれば、ぜひ受講したいと思います。ただし、4 つのトピックを一度の講座で受講することは、学習負担が大きくなる懸念があります。講座期間としては4 か月程度に収めていただけたらと思います。
 - ・ぜひ参加したい。より発展的で大学をけん引するリーダーの養成を目指すような内容であると参加したいと思う。実施形態等は基礎講座と同じが取り組みやすいのではと思うが、内容によっては対面形式が一度でもあってもいいかと思う。

大学経営基礎講座の受講料について

4.1 受講料についてあなたはどのように思われますか。1つお選びください。



4.2 受講するにあたって、受講料はどなたが負担されましたか？



4.3 貴学・貴社では外部機関の研修を受講するにあたり、何かしらの支援制度がありますか？差し障りがなければご教示ください。

- ・上司が参加を承認すれば研修費は大学負担。
- ・大学職員としてスキルアップにつながる通学・通信講座の受講や資格の取得など、年度1回、受講料・受験料などの内3万円までを全額(3万円をこえる金額については10万円を上限として半額)を補助する「自己啓発研修制度」あり。
- ・放送大学等の大学で認めているものを受講する場合は、一定の要件(合格や修了)を満たせば、補助(一部・全額)を受けることが出来ます。
- ・支援制度はあります(自身は正規職員ではないため対象外)。支援額の限度があるもの、また全額負担されるものとあるようなので、全学負担の候補にできないか担当部署に相談済です。
- ・昨年度まではあったが、今年度あるかどうか未定(なので自己負担している)。
- ・個人研究費(申請制)、大学が指定する外部研修の費用負担。
- ・個人研究費が年間6万円使用できるのでそこから書籍購入や研修参加などを行っています。
- ・年間で数万円を上限とした支援制度があります。
- ・上長に申し出てOKがもらえれば支援されるが、額が大きいものに対しては消極的である。2万円くらいなら問題ない。
- ・組織として必要と感じてもらえれば予算措置してもらい、自費ではなく研修費として支援してもらえたり、助成してもらえる制度があります。
- ・自己啓発で、通常の資格講座などであれば上限金額を設けた補助があります。今回の履修証明プログラムなど、大学からの案内があった場合には大学が全額負担し受講が可能です。
- ・事務職員には年15万円までの研修費支援制度がある(業務に関係する内容に限る)。
- ・ありますが上長の許可が必要です。上長の理解がない(個人的な自己啓発になる)場合は支援は受けられない制度となります。
- ・あると思うが、不明。
- ・個人研究費補助:職員一人当たり年間5,000円の「個人研究費」を予算化。職場研修会補助:各部門・部課室センターなどの業務上の課題に応え、職場研修費を各職場単位に交付する(1人当たり5,000円)。通信教育・大学院・その他実務学習を受講するために通学する場合、個人負担金(授業料ー公的補助金)の2分の1以内の補助を行う(上限10万円)。上記が主な規定。
- ・全くありません。自己負担です。あまり事務職員の養成ということに注力していないと思います。
- ・自己啓発支援制度があるが、修了後の報告もあり、自己負担額も大きいので、活用事例は多くない。個人的にはこの制度が多いに助かっています。
- ・今回は学内の「自己啓発研修制度」を活用して参加したため受講料は全額大学負担でした。募集要項で受講料の機関負担を促していただいたのもありがたかったです。

4.4 受講料についてご意見がございましたら、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

- ・10万円と聞くと高いイメージを持ったが、いざ参加してみると内容や講義回数、事前課題など、全てを考えると非常に安いと感じた。もし、自己負担であれば、受講料の分割納入とかの制度があると、お小遣い制の家庭でも払えるのかと思いました。
- ・大変だと思いますが、ぜひこのままの金額で頑張ってもらいたいです!!
- ・受講料と講義内容のバランスに意見はありませんが、他大学で全額大学負担・業務時間内での受講可、という状況の方もいらっしゃるのでは、大学間格差は感じました・・・。
- ・若手職員には支援制度等がないと厳しい金額設定だろうとは思います。
- ・第一期の8万円くらいが妥当。
- ・本学には、特段支援制度はないことから、自己負担で受講しました。個人的には、自己負担すべきという考えであるも、自己負担で参加する場合、全員が全員10万円というお金を払ってでも受講したいと思うかは分からないので、金額設定としては10万円より高いと参加者が減るのではないかと考えます。参加者がもう少し増えても、受講者側としては差支えないと感じたので、金額を高くするなら、参

加者を増やす方が良いのではないかと考えます。

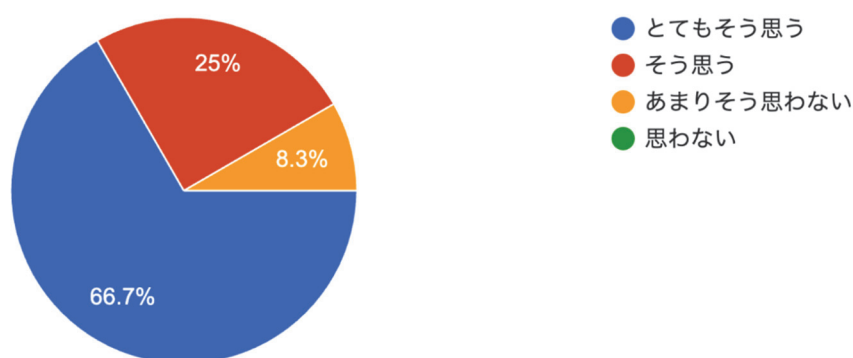
- ・参加人数を考えると一人当たりの単価が高くなってしまふのはやむを得ないと理解しつつも、個人で負担するのでもう少し安いとありがたいです。一方、人数を増やせばこの仲間感も薄れてしまうので、そのバランスは難しいところだと推察しています。
- ・特にございせんが、個人負担されている受講者もいましたので参加をあきらめる方もいると思います。参加者との情報共有や講座内容等総合しても 10 万円以上の価値はあったと思いますので、そうしたことが伝わればと思います。次年度は自分たちの感想が受講者に良くも悪くも影響を与えてしまうので、講座内容もそうですが、価値を伝えられたらと思います。
- ・個人負担として少し高く感じました。「職業実践力育成プログラム」(BP)や「教育訓練給付金制度」になればいいなとは思いました。
- ・本講座を運営するに当たり、自由選択科目も含めると多くの方々から学びを教授いただけるだけでなく、その後のサポートも含めると、受講者の費用負担は低く抑えられているように感じます。また、自分自身が「頑張る覚悟を決める」のに、ちょうどいい(手は出せるけど痛い)金額に設定されていたと思います。
- ・充実した講義や演習環境、受講期間 4 か月を考えれば妥当だと思います。
- ・見落としていたら申し訳ないのですが、昨年度から値上げされた理由が明記されていれば、機関負担してもらうときに説明しやすいです。

広報他

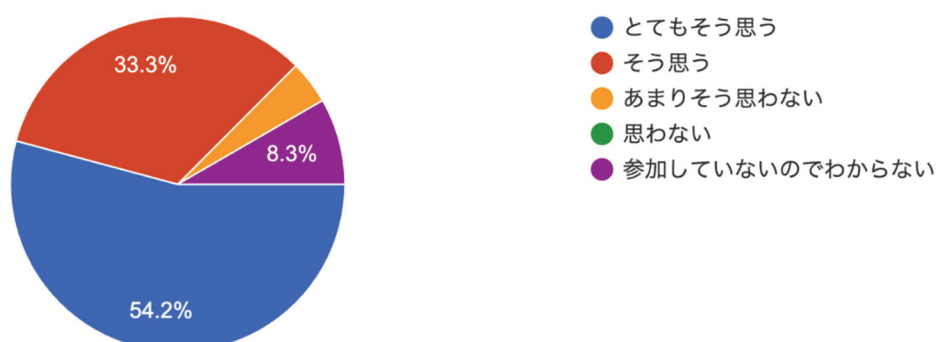
5.1 この講座をどのようにして知りましたか。(複数回答可)。

質問項目	回答人数
所属機関・大学での連絡・掲示(チラシ)	15 人
X(エックス)等の SNS やメーリングリスト	3 人
PD セミナー	0 人
その他(JUAM(大学行政管理学会を通じて))	1 人
その他(以前に何かで見て、改めて検索してみて知った)	1 人
その他(前年度参加者からのすすめ)	2 人
その他(Web 検索)	1 人
その他(所属大学の事務局長からのメール)	1 人
その他(国が出している履修証明プログラムの一覧から大学職員関連を抽出し、発見)	1 人

5.2 この講座を同僚や知人に勧めたいと思われますか。



6 講座開始前のオリエンテーションは、講座を受講するにあたって有益だったと思いますか。



その他

7 最後に大学経営基礎講座に関して、どのような点からでも結構ですので、ご自由にご意見をお聞かせください。

- ・参加者が仲良くなれるように、ランチミーティング等を企画いただきましたが、業務の都合上、1度しか参加できませんでした。戸村先生はじめ講師の皆さまや事務担当者さまが、いかに、本研修を大切にしているかが伝わりました。本学では、まだ次年度の予算は決定しておりませんが、本講座を最低1名は受講できるように、予算確保しました(私が予算担当のため)。是非とも、本学から次の受講者が手を挙げてくれること期待しています。4か月間本当にありがとうございました。引き続き、よろしくお願いします。
- ・大学経営基礎講座を受講する価値は、非常に高いモチベーションを持つ大学職員たちと切磋琢磨できる点にある。
- ・短期間ながら密な講義を作り上げてくださり、ありがとうございました。受講生の自主性を尊重して真摯に対応してくださるなど、配慮の行き届いた環境のなかで「学びの楽しさ」を思い出せたような気がします。そういった対応面でもお手本にさせていただきます。
- ・他の大学の様子を知る機会がありませんので、いい機会になりました。マネジメント論では自大学の事例をもとに考えを提出する、という課題がありましたが、大学内で実際に検討が進んでいる話については出しづらく、中途半端なおざりな内容での課題提出となってしまいました。また、各大学の置かれている環境はさまざまであり、そうした状況を知れること自体はよかったのですが、グループワークの難しさも感じたところです。2 週同じようなことをやるのであれば、例えば一つは共通の内容についてのもの、一つは自学のもの、というようにバランスをとっていただけると、理解も深めやすいかと思います。Playposit にコメントを書き込める仕組みは、口頭より文字でのコミュニケーションの方がやりやすい私にとっては、自分自身の頭の整理にもなり、良かったです。
- ・受講者の方々は知識・考え方・意欲等、どの側面から考えてもレベルが高く、講師の方(自由講座も含む)も、本業が忙しい中この講座のため非常に洗練された授業をして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。課題も多いと聞いていたが、課題が大変ではないと意味がないので、そこまで苦にもならず、勉強にもなったが楽しかったというのが 1 番の正直な感想です。心から受講して良かったと思っているので、次年度は人事に受講推奨を提案しようと思います。
- ・大学経営基礎講座では、大変お世話になりました。初めての学外研修で不安が一杯でしたが、戸村先生をはじめ講師の先生方の親身なサポートやお声がけ、受講生の方々の高い学びに関する意欲に刺激を受けて、不安が少しずつ楽しさに変わり受講を完了できました。1 ヶ月ごとに変わる TOPIC では難しく毎月大変でしたが、最終月には各 TOPIC で学んだ側面から考えることができており明らかに考えの幅が広がったと実感しています。大学経営基礎講座後の学びについては、本講座が楽しく有益であったからこそ次の他の学外研修にも興味を持ち前向きに受講したいと考えることができたと思います。これからも大学経営に関する学びの継続という観点から、大学経営基礎講座の同等レベルの内容で、ケーススタディを考える機会があるといいなと思います。例えば、次年度の講座で学習する一部ケーススタディ(課題)と先生のフィードバックの公開です。前項で「大学経営応用講座」の話がありましたが、自分のレベルでは、応用より基礎講座の内容でもっと複数事例について考える練習をしたいと考えました。
- ・大変お世話になりました。受講の機会をいただき、ありがとうございました。
- ・自大学の新入職員や、経営企画に配属された職員への研修の一環として受講を勧めたいです。
- ・改めて貴重な機会をありがとうございました。企業から参加しており、皆さんのディスカッションを邪魔してしまわないか心配しており、少し控え目にしていましたが、職員の方々の生の声を聞けるのはとても参考になりました。将来企業の方が参加するのであれば是非お勧めしたいです。また、全体を通して戸村先生のお人柄がにじみ出た、非常に雰囲気の良い講座だったと思います。オンラインだけでのつながりは大変だと IT 企業の立場としても良く理解しておりますので改めて御礼申し上げます。もしいずれの講師の方々が企業と意見交換などをしていてもよいということがあれば、参加者かつ IT 企業の立場として機会をいただければ幸いです。
- ・約半年間、大変お世話になりました。またどこかでお会いできたら嬉しいです。ありがとうございました！
- ・入職したときにこの講座があれば、今の私は違っていたかなと感じる。そのくらい魅力的であった。
- ・初回の授業を受けた際は、受講生の方々のレベル(意識、知識、経験値・・・などなど)の高さに圧倒され、自大学や自分自身のレベルの低さを痛感し、危機感と4カ月ついて行けるかの不安を感じていましたが、受講しやすく分かりやすい講座を展開していただいた講師の方々、運営の方々にとても感謝しています。インプットしたことをどのようにアウトプットして自分の力にするかは、自分次第ですので、引き続き学びを深めていこうと思っています。
- ・ディスカッションの時間が少し足りなかったと感じた。
- ・対面開催がいいと思います。
- ・研修への参加には課内の協力が必要不可欠でした。業務に支障のない範囲で研修動画を業務時間内に視聴できる環境や協力体制が整っていたおかげで、無事に研修を終えることができたと思います。他の受講者がどのような体制で取り組んでいたかは分かりませんが、周囲の協力にありがたみを感じました。毎年同じ大学から職員が受講できる体制が整えば、大学内で共通の目標に向かって取り組める仲間が増えるため、本学にとっても非常に有益だと思います。今後も本学から、毎年受講者が出ればいいなと、少し期待しております。
- ・まずは4ヶ月に渡り、大変お世話になりました。第1期生の方にお伺いし、昨年度から大幅な改善として事前の自己紹介や演習回でメンバーをできる限り別にしていただいたり、動画でも講師からの問いかけを入れていただいたり大変ありがたく存じます。正直、途中で自己の業務との兼ね合いで疲れてしまった時もあるのですが、無事に乗り切ることができました。途中で設定いただいたランチミーティングにも参加したかったのですが、業務の都合上参加することができませんでした。もし来年度可能であれば事前に決めておいてかつ時間を少しばらしていただければ参加しやすくなると思います。また動画の問いかけやリフレクションを自身で提出したものを確認する仕組みがないため、書きっぱなしになってしまったように思うのでフィードバックする仕組みがあればいいなと思いました。このアンケートについての提案として次年度以降受講する方へ一言アドレスの設問があっても良いかと思います。根拠のある提案ができる職員になりたいと思います。ありがとうございました。
- ・大学経営を学ぶには遅いスタートを切ったことにはなりますが、そのスタートが本講座であったことはものすごい縁だと感じています。自分一人だけでは到底ゴールまでたどり着けなかったため、講師の先生方、同期のみなさんにただただ感謝しかありません。講師の先生方の個性や同期のみなさんの個性もすごく魅力的で、本当に苦しくて(演習課題がいやで提出締切に間に合わないこともあったりして)

楽しい4カ月間でした。ありがとうございました！

・大変充実した講座で、講義内容と演習回がよく設計されており、楽しく学ぶことができました。受講者の方々も非常に意欲的で、自大学の職員にもぜひ勧めたいと思います。時にレベルの高さを感じましたが、これほど体系的に学べる研修は他にないと思います。ありがとうございました。

・4 か月間お世話になりありがとうございました。この講座を受講して本当に良かったと思います。各トピックの構成からも各先生方がいろいろ議論されて作られているものだと感じました。また、Google Classroom でも定期的に投稿していただいたのでオンライン学習でありながらもモチベーションを維持しながら一つのクラスとして参加者がまとまることが出来たように思います。先生方のフォローがあったからこそ円滑なディスカッションにも繋がったと感じています。

※アンケート回答のうち、受講者の個人情報が特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。

4.3 プログラム修了者数(2010～2024 年度)

年度	大学教員準備プログラム PFFP		新任教員プログラム NFP		履修証明プログラム※1 大学経営基礎講座	
	フルコース	ショートコース	フルコース	ショートコース	教員	職員
2010	13	-	-	-	-	-
2011	15	-	3	-	11	0
2012	6	-	6	-	4	3
2013	9	-	2	-	4	4
2014	5	-	3	-		
2015	4	4	6	6	7	2
2016	3	4	3	18		
2017	7	-	14	-	3	4
2018	3	-	18	-		
2019	3	-	14	-	0	4
2020	未実施		未実施			
2021	35※2		未実施			
2022	38		10		未実施	
2023	30※3		6		27	
2024	30		3		30	
総計	209		112		103	

※1

2011・2012 年度は、各1年間のパイロット版プログラム「大学教育マネジメント人材育成プログラム(Educational Management Leadership Program: EMLP)」とし、2013 年度から2 年間の履修証明プログラムとして実施した。プログラム名称は、2013～2015 年度は EMLP、2016～2018 年度は「アカデミック・リーダー育成プログラム (Leadership for Academic Development Certificate Program: LAD)」、2019～2020 年度は「大学変革リーダー育成プログラム(Transformational Leadership Program in Higher Education: TLP)」として提供した。なお TLP2019～2020 年度については、新型コロナウイルス感染症に伴い TLP2019-2021 として長期履修の形態で実施した。2023 年度からは新たに大学経営基礎講座として開講した。

※2

2021年度プログラムは従来のプログラムと比べて、期間、内容等を大幅に変更して年2回実施した。数値は合計。

※3

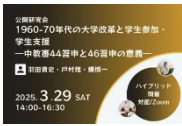
2021年度からの新カリキュラムが定着したことに鑑み、さらにきめ細かく質の高いプログラムを提供することを目的に、参加者数を 30 名に限定して実施した(以降も同様)。

4.4 PD(専門性開発)分野一覧

ゾーン	カテゴリー	エレメント
高等教育のリテラシー 形成関連 コード:L (Literacy)	高等教育論 L-01	高等教育の歴史、大学の理念、大学制度・組織、入試制度、関連法制、管理運営、国内外の動向など広く高等教育に関する知識・教養に関するもの
	大学教員論 L-02	大学教員の役割・責務、倫理、キャリア形成など大学教員に関する知識
	教育内容・カリキュラム論 L-03	教養教育論、カリキュラム論など教授する教育内容の教育論に関するもの
	教授技術論 L-04	授業の設計、シラバスの書き方、学習と教授の心理学、教育測定の原理と方法、プロジェクトベースラーニングの進め方、論文・レポート執筆の指導など教授技術に関するもの
専門教育での指導力 形成関連 (各専門分野) コード:S (Specialty)	学習指導法 S-01	専門分野の学習方法の指導法
	実験指導法 S-02	実験の計画、準備、実施、結果の整理、施設・設備・機器類の使用、危険の防止、倫理的ガイドライン等についての指導法
	研究指導法 S-03	研究テーマの設定方法、関連文献の検索方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方、研究費の申請方法等についての指導法
	実務家教員 S-04	産学連携教育、リカレント教育
学生支援力 形成関連 コード:W (Health & Welfare)	学生論 W-01	現代学生論、大学生の発達と学習、学生の生活問題、学生理解とカウンセリングなど学生理解と指導に関するもの
	学生相談 W-02	大学コミュニティへの適応支援の技術、カウンセリングの基礎、コンサルテーションの基礎、グループワークの基礎、人間関係調整法等の指導
	キャリア教育 W-03	進路選択の支援方法、キャリア形成の支援方法、経済的自立の指導
	健康教育 W-04	健康な生活習慣形成の指導法、趣味や余暇活用の指導法
マネジメント力 形成関連 コード:M (Management)	組織運営論 M-01	大学の管理運営、大学のリーダーシップ論、危機管理
	大学人材開発論 M-02	FD/SD 論、教職員開発プログラム作成、キャリアステージ論
	教育マネジメント M-03	質保証、入口管理、カリキュラム・マネジメント、出口管理

4.5 PD セミナー等分野別一覧

*参加者数:上段合計数、中段(学内者数)、下段(学外者数)

No.	セミナー名	参加者数*	備考
高等教育のリテラシー形成関連 コード:L(Literacy)			
1	戦後アメリカ高等教育の展開:カリキュラム・学生・研究支援 2025年3月15日(土)10:30~12:00 オンライン開催 講師:原圭寛(昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部 専任講師)	48 (5) (43)	
マネジメント力形成関連 コード:M(Management)			
2	2024年度SDPシリーズ 大学経営人材育成プログラムの実践 -2024年度大学経営基礎講座開講ガイダンス- 2024年6月1日(土)10:30~11:30 オンライン開催 講師:戸村理(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授)	36 (4) (32)	
3	令和6年度IDE東北支部セミナー 女性と大学—その日本の特徴と未来への針路— 2024年11月18日(月)14:00~17:00 ハイブリッド開催 基調講演:河野銀子(九州大学 男女共同参画推進室 教授) 講演1:朴澤泰男(国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官) 講演2:横山広美(東京大学 国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授) 講演3:穴戸尚子(一般社団法人 経済同友会インターンシップ推進協会専務理事・事務局長)	128 (47) (81)	
その他			
4	1960-70年代の大学改革と学生参加・学生支援 —中教審44答申と46答申の意義— 2025年3月29日(土)14:00~16:30 ハイブリッド開催 講演1:戸村理(東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授) 講演2:羽田貴史(広島大学・東北大学名誉教授) 講演3:蝶慎一(香川大学 教育推進統合拠点大学教育基盤センター 准教授)	52 (4) (48)	

2024年度PDプログラム参加者総数 延べ264名

4.6 PD セミナー参加者アンケート結果

高等教育のリテラシー形成関連 コード:L(Literacy)

2025年
3月15日(土)
10:30-12:00

戦後アメリカ高等教育の展開:カリキュラム・学生・研究支援

講師 原 圭寛(昭和音楽大学・昭和音楽大学短期大学部 専任講師)

回収率 = 47.1% (20/48)

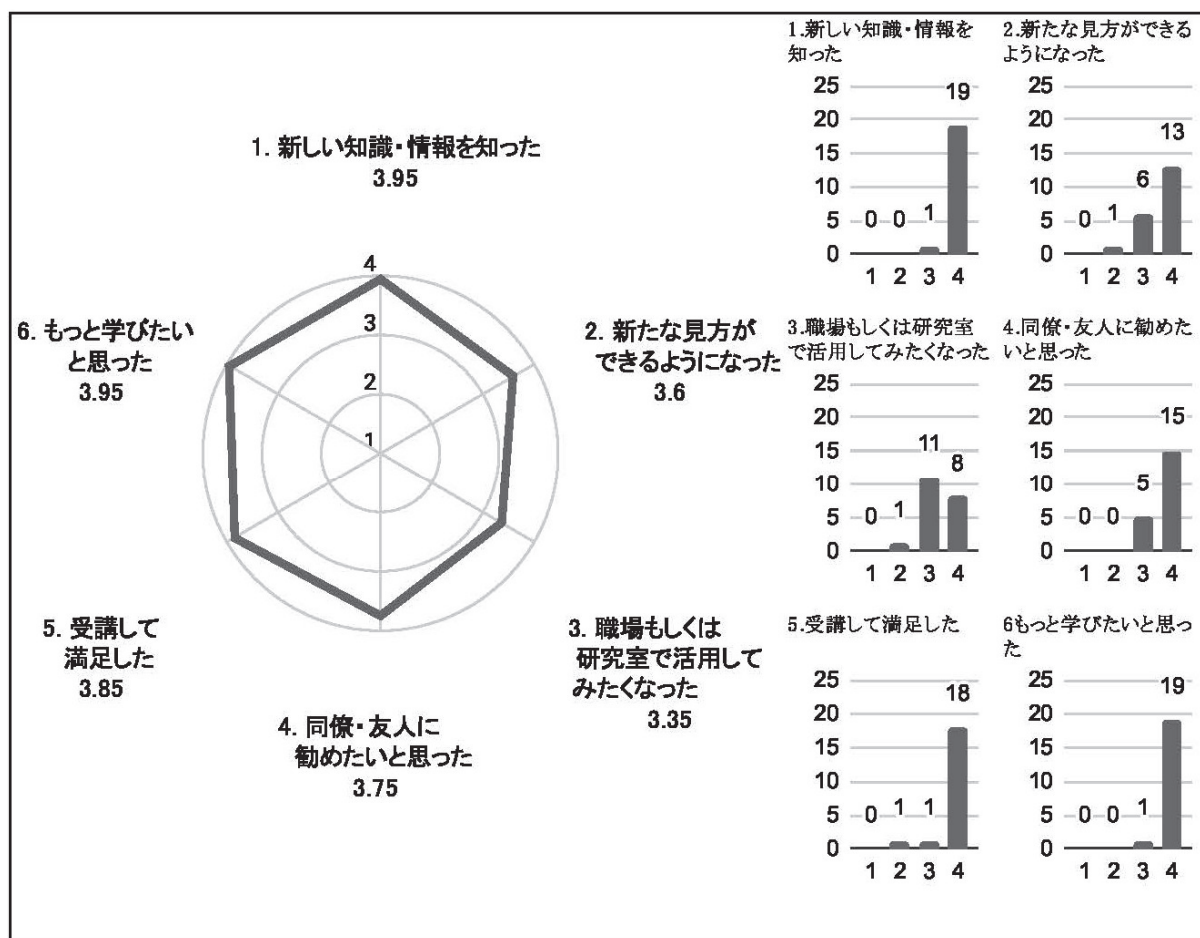
回答者属性(N=20)

【職階】教授(3)/准教授(2)/講師(1)/助教・助手(1)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(2)/職員<係長・主任・一般職員等>(6)/その他(4)/無回答(0)

【性別】女性(5)/男性(15)/無回答(0)

【学内外】東北大学(2)/他大学等(18)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・アメリカ高等教育の全体像や現在の課題(日本でアメリカ型教育改革を進めるときに無視してはならない視点の整理)。
- ・ガイガーによるアメリカ高等教育の戦後からの歴史が翻訳されたこと。
- ・シラバス等が無批判的に導入されること。
- ・近年の米国では学士号のみ取得して就職すると、全学歴(高卒、大学院卒)で唯一賃金プレミアムの平均がマイナスになる。
- ・翻訳された文献を購入して知見を広めたいと思った。
- ・米国の大学が学部学科ではないと改めて知ることが出来ました。紹介頂いた書籍でさらに学びたいと思います。
- ・本学における初年次教育の考え方を改める必要があるのではないかと思います。
- ・何気ない単語一つでも翻訳の仕方の意味合いや一般的なイメージ、ひいては概念への理解が変わってしまうことが分かったので、原著を読む際や自分が翻訳に携わる際には機械的に訳すのではなく、その単語の意味を重視しようと思った。
- ・学習時間についての現状のご説明と質疑応答(内容面:非認知的・認知的、学生の実態が二極化している)。
- ・アメリカから移入された各種施策がアメリカでの趣旨とどれくらい乖離しているのかということ。これまでの自身の理解と照らし合わせながら確認できたらよいと思いました。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・LE や GE の概念だけではなく、具体的な資料などを入れてもらえると、枠組みだけではなく、何が問題とされているのかを理解しやすかったのではないかな。
- ・データ集があれば理解が明確だったかもしれません。
- ・研究支援についてもうすこし詳しく聞きたかった。
- ・特にありませんが、やや進度が早かったように感じます。
- ・本来多様であるはずのアメリカにおける高等教育が、なぜ、日本では「アメリカの高等教育」といったように一括りとされ、高等教育政策の手本とされるのか、もう少し時間をとってご説明またはご意見を伺いたかった。

4. セミナーに関しての意見・感想

- ・こうした基本的な学術的なものを期待しています。
- ・アメリカ高等教育の基本的なシステムから戦後の展開、また現代の議論や研究の現状に関する議論に至るまで大変有益な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・今後もよろしくお願いします。
- ・ありがとうございます。
- ・教育史と一口に言ってもそもそも教育が政治や経済、文化に支えられているものであるため、学問史や政治史も併せることで、その国の教育の流れの一部をとらえられると、改めてセミナーを通して思いました。また、アメリカの大学システムの概観を知ったことで、日本の大学で学部に所属する自分の学び方が当然なものでないことを認識できました。今回のセミナーで歴史的背景の流れの大切さを改めて実感したので、自分の受ける教育や今後考えていく教育について、どんな先人たちの試みや議論によってつくられてきたのかを研究していきたいと思える機会になりました。

※アンケート回答のうち、受講者の個人情報が特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。

マネジメント力形成関連 コード:M(Management)

2024 年
6 月 1 日(土)
10:30-11:30

2024 年度 SDP シリーズ
大学経営人材育成プログラムの実践 -2024 年度大学経営基礎講座開講ガイダンス-

講師 戸村 理(東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授)

回収率 = 27.8% (10/36)

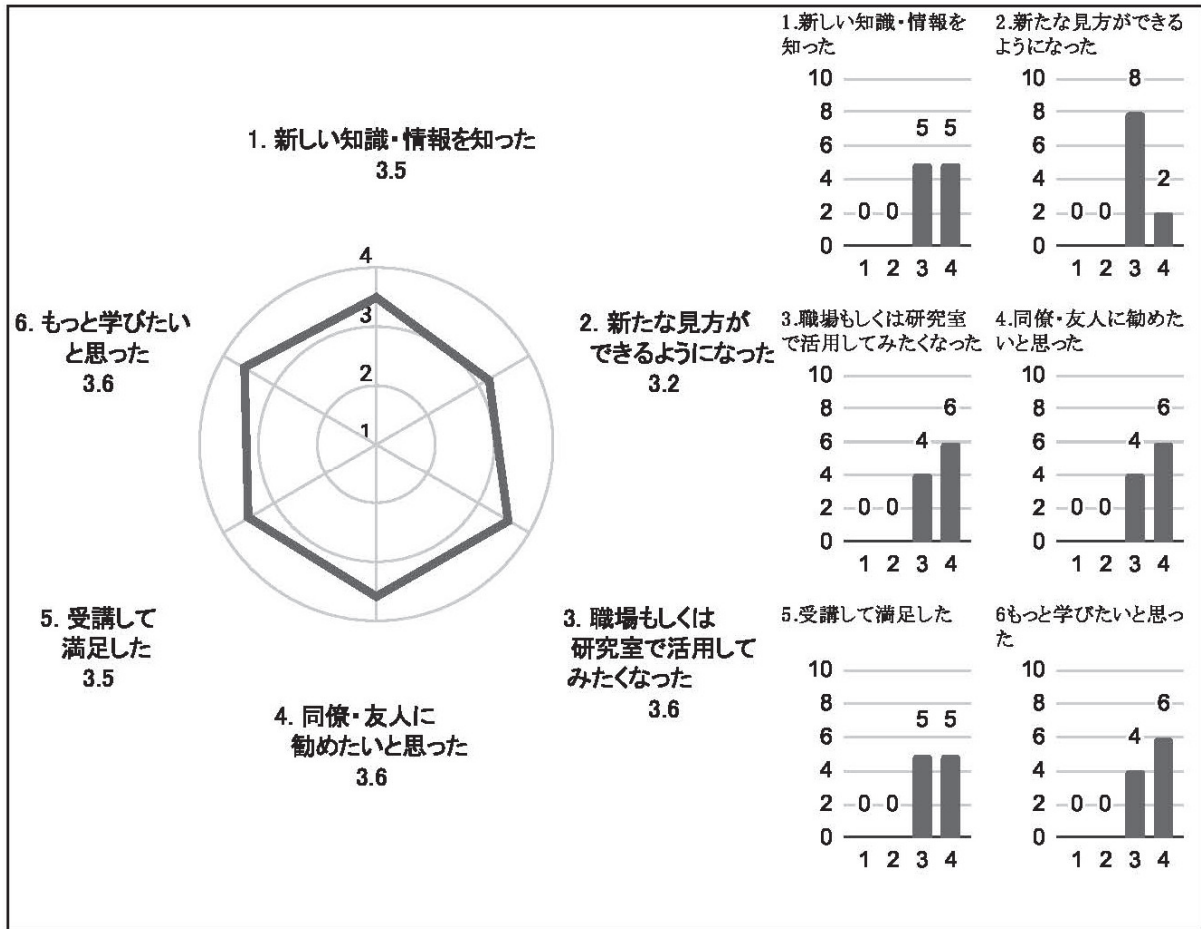
回答者属性(N=10)

【職階】教授(1)/准教授(0)/講師 (0)/助教・ 助手(0)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(0)/職員<部長・ 課長以上>(0)/職員<係長・ 主任・ 一般職員等>(9)/その他(0)/無回答(0)

【性別】女性(2)/男性(8)/無回答(0)

【学内外】東北大学(0)/他大学等(10)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・プログラム内容に加え、ネットワーク構築が魅力に感じました。
- ・財務に關しての講座があることが魅力的。
- ・参加者の構成について、セミナーの実施方法について。
- ・学校法人会計基準について学べること。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・回答なし

4. セミナーに關しての意見・感想

- ・大学経営基礎講座の受講を強く希望するのでよろしくお願いいたします。
- ・丁寧にご説明いただきありがとうございます。

※アンケート回答のうち、受講者の個人情報が特定できる箇所等については、文言を修正して掲載しています。

4.7 PDPonline（専門性開発プログラム動画配信サイト）一覧

（2024 年度末時点）

	セミナー名	講師(所属は講演当時、敬称略)
1	Managing internationalisation: The priorities of the University of Melbourne	Richard James(メルボルン大学)
2	Finding Common Ground: enhancing interaction between domestic and international students	Sophie Arkoudis(メルボルン大学)
3	研究と実践のインタラクション:大規模学生調査研究と大学IRコンソーシアム	山田礼子(同志社大学)
4	学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題ー憲法学研究者としての歩みにふれて	辻村みよ子(東北大学)
5	Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink(高等教育コンサルタント)
6	大学教育論:教養と専門の二項対立を越えて	小笠原正明(北海道大学)
7	リーダーシップと意思決定	吉武博通(筑波大学)
8	歴史から見た大学:中世から現代まで	寺崎昌男(立教学院)
9	認知科学と学習の原理・応用	佐伯胖(信濃教育会教育研究所、東京大学名誉教授)
10	Ensuring Research Integrity in the Australian Context: Future Directions	Marc Fellman(豪ノートルダム大学)
11	データに基づく教学改革をどのように進めるかー～アセスメントの5ステップ～	山田剛史(愛媛大学)
12	大学教育と青年期発達	鈴木敏明(東北大学)
13	授業づくり:準備と運営	邑本俊亮(東北大学)
14	アカデミック・ライティングを指導するー現状の分析と指導法の提案ー	井下千以子(桜美林大学)
15	東北大学生の履修行動と学修成果	串本剛(東北大学)
16	学修成果測定をめぐる国際動向	杉本和弘(東北大学)
17	人文・社会科学における研究キャリア形成ーー現状と若干の提言	佐藤裕(国際教養大学)
18	学習と教育の科学ー認知理論から大学の授業改革を考えるー	市川伸一(東京大学)
19	Ethical Conduct in Research SupervisionーPrinciples、Policies、and Procedures	Gabriele Lakomski(メルボルン大学)
20	学習効果を高める ICT の活用法ー～反転授業も含めた授業設計～	向後千春(早稲田大学)
21	デジタル知識革命と大学の未来ー～ポスト・グーテンベルク時代の教育に向けて～	吉見俊哉(東京大学)
22	発達障害学生支援の現状と法が求める合理的配慮	青野透(金沢大学)
23	Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger(クイーンズ大学)
24	学生が成長する環境とは何かーボーダーフリー大学の現実をふまえてー	葛城浩一(香川大学)
25	学力形成と教育マネジメントの役割ー金沢工業大学の実践ー	西村秀雄(金沢工業大学)
26	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき 21 世紀の学士課程教育像	小笠原正明(北海道大学名誉教授)
27	体育を通して見る人間教育	木原成一郎(広島大学)、小林勝法(文教大学)、大築立志(東京大学)、浅井英典(愛媛大学)
28	大学教員の役割とキャリアステージ	羽田貴史(東北大学)
29	社会学における数理科学教育の現状と課題	盛山和夫(関西学院大学)
30	大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	渡辺美智子(慶應義塾大学)
31	外国人留学生の日本における就職支援の課題と企業の取り組み事例	田籠喜三(株式会社 TAGS)

32	Academic Leadership and Current Challenges in Higher Education: an Australian Perspective	Peter McPhee(メルボルン大学)
33	Leadership Foundation for Higher Education(UK)	Doug Parkin (Leadership Foundation for Higher Education)
34	Curriculum Reform in Australian Universities: Management for Internationalization	Peter McPhee(メルボルン大学)
35	データを活用した教育改善へのステップ	鳥居朋子、川那部隆司(立命館大学)
36	私立大学のガバナンスの課題と展望 ―地方中・小私学の可能性を考える	合田隆史(尚絅学院大学)
37	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	吉武博通(筑波大学)
38	大学職員の専門性開発 ―その現状と課題―	大場淳(広島大学)
39	大学カリキュラムの構造と編成原理	吉田文(早稲田大学)
40	発表倫理を考える	山崎茂明(愛知淑徳大学)
41	研究評価の手法とマネジメント	林隆之(大学改革支援・学位授与機構)
42	インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木克明(熊本大学)
43	コーチング技能を活用した院生指導	出江紳一(東北大学)
44	グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田浩(一橋大学)
45	国民の数量的リテラシーに求められるもの ―科学技術立国を支える基盤	桑原輝隆(政策研究大学院大学)
46	イノベーション人材育成に資する数学教員養成の在り方	根上生也(横浜国立大学)
47	聴覚・視覚障害学生の体育授業における配慮と工夫	栗原浩一(筑波技術大学)
48	障害学生の発達の課題と支援のあり方	石原保志(筑波技術大学)
49	発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮と相談支援のあり方について	長友周悟(東北大学)
50	聴覚障害学生の語学授業の配慮と課題	須藤正彦(筑波技術大学)
51	聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスの理念に基づく授業環境の整備	石原保志、宮城愛美、宇都野康子 (筑波技術大学)
52	授業デザインとシラバス作成	串本剛(東北大学)
53	「しまった !!」とならないために ―ICT時代の教育で押さえておきたい法―	三石大、金谷吉成(東北大学)
54	Engaging Students in Learning in English-medium Classes	Todd Enslen(東北大学)
55	Leadership to Internationalize Higher Education and its Institutions	John K. Hudzik(Michigan State University)
56	大学生のクリティカルシンキングの育成	楠見孝(京都大学)
57	学生理解と学生発達	岡田有司(東北大学)
58	課題を考えるー大学教育の課題とデータサイエンス学部への挑戦	竹村彰通(滋賀大学)
59	[SDP シリーズ第 1 回]経営支援に向けた IR 情報のマネジメント	森雅生(東京工業大学)
60	[SDP シリーズ第 1 回]内部質保証を学習成果につなげる道標	大森不二雄(東北大学)
61	[SDP シリーズ第 1 回]教学ガバナンスのあり方とそれを支えるアカデミック・リーダーの育成	杉本和弘(東北大学)
62	私立大学のガバナンス ～事例にみるその多様性と可能性～	大森昭生(共愛学園前橋国際大学)
63	科学教育を科学的に変革する:学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る	Steven Pollock(University of Colorado Boulder)
64	実践から語るー大学数学教育の現状と未来へのデザイン	水町龍一(湘南工科大学)

65	[SDP シリーズ第 2 回]リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田貴史(東北大学)
66	[SDP シリーズ第 2 回]現代社会における科学技術イノベーション政策の動向と課題	小林信一(放送大学)
67	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント	藤本雅彦(東北大学)
68	研究政策と知的財産戦略—大学における研究成果の取扱い—	玉井克哉(東京大学)
69	IR による教学データの活用手法	浅野茂(山形大学)
70	ラーニング・アナリティクスの可能性	緒方広明(京都大学)
71	大学における教育と学習の評価	木村拓也(九州大学)
72	発達障害学生の学びとキャリア「入口」「真ん中」「出口」の支援	田澤実(法政大学)
73	世界における高等教育の質保証の到達点と課題	深堀聰子(国立教育政策研究所)
74	[SDP シリーズ③2018]第 3 期認証評価にどう対応するか—内部質保証の重点項目化の意味—	土屋俊(大学改革支援・学位授与機構)、工藤潤(大学基準協会)、伊藤敏弘(日本高等教育評価機構)
75	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革—カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組—」	Carl Wieman (Stanford University)
76	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革—カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組—」	Martyn Kingsbury (Imperial College London)
77	学びのユニバーサルデザイン(UDL)で幅広い教育ニーズに対応できる講義を	川俣智路(北海道教育大学)
78	エンrollment・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか	鷹田敏行(茨城大学)
79	国立大学における経営者層形成の諸問題	山本健慈(国立大学協会、和歌山大学名誉教授)
80	大学の使命と社会～私のビジョン～	宮内孝久(神戸外語大学)
81	大学の使命と社会～私のビジョン～政策の視点、地方私学の視点から	合田隆史(尚絅学院大学)
82	世界の高等教育政策	杉本和弘(東北大学)
83	高大接続と大学入試改革	宮本友弘(東北大学)
84	大学は誰に何を説明するのか—共通性と多様性の両立	深堀聡子(九州大学)
85	学修時間と単位制度を再検討する：日米の議論から	森利枝(大学改革支援・学位授与機構)
86	リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割	乾喜一郎(白百合女子大学)
87	ポストコロナ時代と「大学」の〈時間〉	吉見俊哉(東京大学)
88	学生への経済的支援の現状と課題	小林雅之(桜美林大学)
89	日本の科学研究力失速の現状とその要因	豊田長康(鈴鹿医療科学大学、三重大学名誉教授)
90	公立大学政策とその将来像	中田晃(一般社団法人公立大学協会)
91	学士課程教育における日本語リテラシーを考える	滝浦真人(放送大学)
92	「学問としての教育学」と教育の未来～学び／公教育の構造転換に向けて～	苫野一徳(熊本大学)
93	大学組織を理解する	中島英博(立命館大学)
94	日本の博士人材養成の現状と課題	川村真理(文部科学省科学技術・学術政策研究所)
95	2E 教育の理念で発達障害のある学生の才能を活かす	松村暢隆(関西大学名誉教授)
96	学生の目を社会に開く —大学によるエンゲージメントの新展開—	吉田文(早稲田大学)、小川幸司(長野県蘇南高等学校)、西村幹子(国際基督教大学)
97	教職学協働による大学改革の奇跡	村上雅人(芝浦工業大学 学事特別顧問)

98	後期中等教育と大学教育との接続	白水始(国立教育政策研究所)
----	-----------------	----------------

教育関係共同利用拠点(教職員の組織的な研修等の共同利用拠点)

大学教育イノベーション人材開発拠点 事業報告書 2024

Joint Educational Development Center

Innovation in Learning and Teaching at University Annual Report 2024

2025 年 8 月 発行

編者 東北大学高度教養教育・学生支援機構 教学共創推進センター大学教育支援室

発行所 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41

TEL 022-795-4471 Email: cpd_office@grp.tohoku.ac.jp

